

の町を乞食をして歩いていたということです。この目で見たという年寄りか って過ごしました。男が帰ってきてわけを知りこれもまた僧になり、あの母 ましさ、と両手を差し出して見せますと、その親指が二本とも蛇になり、 昼間あなたたちのようすをのぞきにいったことだってあるの、あなたたちが 覚めたとき、ああひとりで寝てるんだと思うとたまらなくなってしまうのよ るものか、つらくてつらくてたまらないの、今のこの状態はわたしがいいだ らなどといい紛らわすところがよけい気にかかり、娘がさらにききただしま しい、何か考え込んでいるようですので、娘は、おかあさん心配なことがあ 妻は母の部屋に行って話をしていたときのこと。母のようすがなんだかおか したので、蛇の指もやがてもとにもどったといいますが、母は、後には、京 もまた尼になりました。朝も夕もこのことを悔い改めようと一心につとめま り何も考えられなくなりそのまま黙って髪をおろして尼になり一生黙りこく 赤い舌をさしのべてひろひろと動いておりました。娘は目の前がまっ暗にな してきたけど、こんな深い罪になってあらわれてきたのよ、ほら、このあさ てもみなかった、だれのせいでもない、自分のせいと思い返して今まで我慢 がざわざわしてどうしてもおさまらない、こんな苦しみを味わうなんて思っ ××してるのを陰からのぞいたときも物凄く苦しかった、今だって、胸の中 すと、母はとうとう語り出しました。 るのならどうぞ話して、隠し事なんかしないでといいますと、あらなにも考 を女を大切にして日々を暮らしていましたが、 思ってなどといいながら、ときどき男は女の部屋に顔をみせ、新しい妻も母 ら聞いた話ですから、 したことなのよ、だから誰を恨むことなんかないのにね、でも夜にふと目が え込んでなんかいませんよ、ちょっとこのごろ体の調子がよくないもんだか そう昔のことではなかったと思います。 -そうなの、もう何を隠したりす ある日、男が外に出かけ

と動いてました。いつか乞食をして歩くのかもしれません。やこんなことをしたわけではない。でも蛇の指なら持ちました。ひろひろやこんなことをしたわけではない。でも蛇の指なら持ちました。ひろひろ

この頃死ぬということについてよく考えます。若かったころもそれは考えておりましたけど、昔は妄想してました。死とは、快楽に近いものかと。ときどきそんな描写がしてあるものですから妄想して、おなにーなんかもしてました。しかしこのごろ考えるのは、死は快楽からはほど遠く、苦しい、なりまして、自然とまわりも高齢になりまして、死に行く人々が大勢いる。なりまして、自然とまわりも高齢になりまして、死に行く人々が大勢いる。なりまして、自然とまわりも高齢になりまして、死に行く人々が大勢いる。とは。つまらない。苦しい。見苦しい。憂鬱で、もの悲しい。果てしもないとは。つまらない。苦しい。見苦しい。憂鬱で、もの悲しい。果てしもないとは。つまらない。苦しい。見苦しい。憂鬱で、もの悲しい。果てしもないとは。つまらない。苦しい。見苦しい。憂鬱で、もの悲しい。果てしもないとは、つまらない。

を思いつめていたそうです。と昔の人はさらに語りました。これはごくを思いつめていたそうですが、いえ、昔の人にとっての最近ですが)あるかたのイトコ最近のことですが(いえ、昔の人にとっての最近ですが)あるかたのイトコ

夕乗って舵の取り方を習いました。北風がたえまなく強く吹くようになった 用意したりもしていたのですが、ふと思い直してこう考えました。もう証明 のかっぱであると確信しまして、 ありました。 妻子はおりました。おりましたが、思いつめてますから何をいってもむだで ら教えてくれと本職の舵取りにたのんでおきまして、その風が吹いたと知っ るという場所へ知り合いを頼って行きまして、新しい小舟を一艘つくらせて朝 火傷の治療をやめ、ある海に面した土地、南に向けばいちめんに海が広が か、あるいは死にたくないのではないかと疑う心がわきおこれば、悶えて苦 まいち信用できない部分もある、 まらない、その上しょせんおれは凡夫である、死ぬ瞬間、どうふるまうかい 済みのように身燈なら大丈夫だ、しかし浄土へ行って生き直したところでつ にさしはさみしばらくジッとしておりました。肉は焦げ脂は溶けて皮膚はめ 死なないかぎり、臨終のときに落ち着いていられるわけがない、と考えて、 あそこならこの身のままでふらりと行ける、 しみ、往生もおじゃんである、それを考えれば補陀落山だ、あそこへ行こう。 くれ、酸鼻にたえないようすになりましたが、本人は、これならできる、へ できるかどうかためしてみようと考えまして、鍬を二つまっ赤に焼いて両脇 身燈しようと思い立ちました。しかしさすがに苦しいものらしい、ひとつ、 だりしたら、往生などできるものじゃない、病気じゃだめだ、病気以外で 小さくなり、やがて見えなくなりました。 ものだ、もし悪い病気にかかって悶えながら死んだり、意識も無くして死ん 往生したい、往生したい、しかし自分の意志なんて思うようにはいかない 小舟に帆をかけて、一人で南をさして漕ぎだしていきました。 小舟は沖へゆらゆらと出て行ったかと思うと長い時間をかけて そのときになって死ぬか死ねるか死にたい 火傷の治療をしながら身燈用のかまどを と思いたちました。それですぐ 男に

ワタクシに執着しているとヨソ様が見えません。たまに見えると、どんなてますと、日々の暮らしが、針のむしろです。それで日夜地蔵のことを考えています。わたしの生まれて育った土地にはとげ抜き地蔵というのがありまして、そのあたりの人々は、生活にとげが刺さればたちまちそこへ詣でてまして、そのあたりの人々は、生活にとげが刺さればたちまちそこへ詣でてまして、そのあたりの人々は、生活にとがが刺さればたちも、祖母も、みとげを抜いてもらおうと考えた。母も、伯母も、叔母たちも、祖母も、みとげを抜いてもらおうと考えた。母も、伯母も、叔母たちも、祖母も、みとげを抜いてもらおうと考えた。

は昔のお話ですけどねと断ってわたしに語りました。すると昔の人が、前の人とは別の人ですが、こんなのがありますよ、△

ぱり訪ねることに心を決めて、会いたい会いたいと思いつめて各地を放浪すか、生身の地蔵菩薩に会えるわけがないと笑われるだけでしたが、でもやっか、生身の地蔵菩薩に会えるわけがないと笑われるだけでしたが、でもやっか、生身の地蔵菩薩に会えるわけがないと笑われるだけでしたが、でもやっか、生身の地蔵菩薩を信心しておりまして、生身の地蔵菩薩ました。信心して清く正しく生きておりあるところにひとりの僧がおりました。信心して清く正しく生きておりました。

おん化身、人の苦を身代わりに受けていたところでありました。 のにかき消すようにいなくなりました。僧は驚いて、婆や、いったいこの子 のうちでいっしんに地蔵菩薩を念じていましたが、なかなか寝つかれないの 生まれた縁で名を地蔵丸と申します、と。僧はなんだかふしぎな気持ちに 親には早く死に別れ、たよるところもございません。ただ月の二十四日に を世話しておりまして、ときどき折檻されてああ泣くんでございます、と。 は何をと問うたのですけれど、答える間もなく婆もまた外に出た気配もな がむくりとおきあがり、はっきりとした声音でこういいました、あと三年間 でありました。やがて夜半もすぎまして、草木もねむる丑三つ時。その子 来の願いといえどもそんなにやすやすとかなってたまるかと思い直して、 ゃにしてよろよろと家に帰ってまいりました。婆に聞きますと、あるじの牛 がする。あわれなと思って聞いておりますうちに、子どもは顔をくしゃくし きましたが、すると何ですか、連れて行かれた方からその子の泣き叫ぶ声 れる子どもでありました。そのうちに人が来てこの子どもを呼びだしてい りと子どもがひとり。 賤しい下人の家に宿を借りました。その家に住むのは、年取った婆がひと るうちに、某という土地にたどりつきまして、やがて日も暮れ、僧はある いのにいなくなりました。それでわかりました。あれはたしかに地蔵菩薩の ここのあるじにこき使われることになっていたけど、この僧の信心に出会え ではないか、いやまさかそんなこと、自分のような凡夫に何がわかるか、年 なりまして、もしやこの子は、自分の年来の願いのとおり地蔵菩薩の化身 もうよくなった、それじゃ行くよ、と。そして外に出た気配もない 牛飼いをしているという、年は十四五になるかと思わ

ればきっとなんとかなりましょう?でなくてもいいような。ねんぴーかんのんりきでもあべまりあでも念じていでなくてもいいような。ねんぴーかんのんりきでもあべまりあでも念じてい意菩薩

昔のことです。 皆の出臓です、ではもうひとつ、とその人がいいました。これも今となればでも会えてしまうという庶民性、身代わりになる代受苦性、これはやっ

何某は、裕福で強大な力を誇る一族の出、その力を背景にたくさんの郎何某は、裕福で強大な力を誇る一族の出、その力を背景にたくさんの郎何某は、裕福で強大な力を誇る一族の出、その力を背景にたくさんの郎何某は、裕福で強大な力を誇る一族の出、そこで郎党はその男を捕まえてしてしまえ、よいか必ずと申しつけました。そこで郎党はその男を捕まえてしてしまえ、よいか必ずと申しつけました。そこで郎党はその男を捕まえては月の二十四日、地蔵菩薩のお縁日、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩は月の二十四日、地蔵菩薩のお縁日、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よ、地蔵菩薩よいがられていきながら、男は一位においる。無党を養っておりました。その男、あまりにちょうだもないが何某は自分からこの男のことをいいだした。その男、あまりにういうわけか何某は自分からこの男のことをいいだした。その男、あまりにういうかけが何某は自分からこの男のことをいいだした。その男、あまりにういうかけばいました。

何の不思議かと思いながら、二人の郎党は男を曳いて館に戻り、 見ました。走り終えた瞬間に倒れて死んでもかまわない、わが身も命も捨 振り返ってみると、十三、四の小僧がひとり、無我夢中で走りながら声を 来た方角から呼ぶ声が聞こえるような気がしました。耳をすませてみると、 とも思えません。一方、一人目の郎党は、ようやく津坂にかかったときに 衆生をひとり救ったとみなが知りました。 何某に話しました。何某が命拾いした男を呼んで問いただすと、 をみとめたとたん、走っていたあの小僧は消えてなくなりました。一体全体 た郎党がようやく姿を見せたのでありました。一人めの郎党が二人めの郎党 れ、立ち止まって馬を下りてみた……そこに、 てるつもりで、ただ人の命を助けようというその走り方に郎党は心をうた 枯らして叫んでおりました。 あるじのおおせでーござりますー殺してはーなりませぬーと聞こえてくる。 馬を走らせましたけれども、ずいぶん以前に出かけております、 ち後悔し、またなんだかそら怖ろしくもなり、また一人郎党を呼んで、殺 る日ですよ、そんな日に殺生はなさらぬがよろしい。いわれて何某はたちま 口々に叱咤しました。今日は月の二十四日、地蔵菩薩が衆生をお救いなさ 不調法なので津坂に遣って殺すのですといいますと、お忘れか、と僧たちは えに地蔵菩薩を念じていました、と。月の二十四日、 まるで混乱して泣きわめいておりましたけど、やっと答えたのは、 さぬ前にと速い馬に乗せて使いに遣りました。二人目の郎党は鞭をふるって 郎党は、そんな走り方をするものをはじめて あの速い馬に乗って追ってき 地蔵菩薩がたしかに ・追いつける 一部始終を ただひと 男はもう

勢どこかから湧いて出て、地蔵のことを考えますよとわたしはいいました。 多かった。わたしの現在住む土地の、そこここの四つ角にも小さな祠があ りまして、それも地蔵、 じゃーもうひとつ。今は今でも昔は今でもなく、昔は昔でさえなく、今 十四日、四日 月の二十四日、とくに八月の二十四日は衆生が大 、四のつく日は、とげ抜き地蔵はいつも人出が

某は思いさらに戦いつづけまして、やがて思いどおりに勝ちどきを挙げます 某はとつさに渡された矢を取って射る。また渡される、また射る。また射る。 わが氏寺の地蔵尊よ、と念じますと、目の前に一人の小僧が忽然とあらわ 尽くしてしまったことに気づきました。 がひらめき斬り結び、人がばたばた倒れて死ぬさなか、やなぐひの矢を射 も多く殺し滅ぼそうと戦っていましたが、ひゅんひゅんと矢が飛び交い、刀 えてあちこちで戦っておりました。その日もまた合戦の中に身を投じ一人で は何某の先祖代々の氏寺でありました。何某、合戦を得意とし、随兵を従 あるところに古寺がありまして、そこに地蔵菩薩がありました。その寺 るいるいたる死骸を後にひきあげていきました。館に戻ると、あの矢を 矢を拾って何某に渡します。思いがけぬことながら、戦場です、何 そのうちに、はっしと、矢を拾う小僧の背に矢が射立てられ しかし次の瞬間には小僧の姿を見失い、 もはやこれまでと、思わず心中で、 逃げおおせたかと何

> 矢を、 がみずから殺生する人々の中にたちまじり、念じる人の声に応じて、 を見たのであります。なんといたましい。われわれ衆生のために地蔵菩薩 い どまん中に矢が一筋射たてられてあるのを見たのであります。なんとせつな 後日の話になります。ある日何某が氏寺に詣でたおり、地蔵菩薩像の背の 射たてられたのだ、死んでしまっても不思議はないと思うと哀れでした。 拾ってくれた小僧を、だれの従者か、だれの身内か、あちこち訪ねてまわ りましたがだれも知らない。自分のために矢を拾おうとしたとき背に矢が 木彫りの像のおだやかな地蔵顔がほんのかすかに苦痛にゆがんでいるの 身代わりの苦しみさえも、その身にうけた。 、毒の

します。 中で尽きませぬ。苦のある人の身代わりになって死んで行くのはどんな気持 その慈悲も不可思議で、知恵も弁才も不可思議で、その不可思議は無限の ちだろう。死とは、今まで経験したこともない、大げさな一瞬のような気が ーしーちえふかしぎ。にょーしーべんざいふかしぎ。その神力は不可思議で、 地蔵地蔵。にょーしーじんりきふかしぎ。にょーしーじひふかしぎ。 ああ、あの声に、声をあわせたくなりますね。

によ

しまない、仏法僧をそしらない、と仏道の禁戒をさずけてやり、 間祈ってみたのでありますが、男は弱るばかりでした。とうとう第七日の 殺す、それを生きるための仕事としておりました。ところがある日、 男はぼろ着に着替えますと、二人の僧に介護され、 しました。八条河原の荒れ地でわたしは死にたい、わが家には蓄えが無く 法華経方便品を読みきかせてやりました。死に行く人はじつにさばさばと V と見て取って、殺さない、盗まない、邪淫しない、妄語しない、酒を飲まな 夜半にはお上人が呼ばれまして。わたしはもう死にますが、その前に仏の ょ 悪い瘡くらいしか来てくれない、せめてお坊様がた、除病を祈ってください 鱗があるもの甲羅があるもの、鳥も獣も。獲って殺す、獲って殺す、 ようやく息が絶えました。屍はそこに置いて、僧たちは帰っていきました。 して落ち着いて、おだやかに聴いていましたが、やがてこんなことをいいだ お弟子になりたいとすっかり弱った男がいいますので、お上人もこれはもう ていうことには、昔は遊ぶ友には事欠かなかったもんだがもういけません、 みせますと、悪い瘡だそうで。いよいよ男も観念して、禅僧を二人呼びまし いたようすで、しんとして、念仏をとなえはじめました。夜も明ける頃、 また親類も無く、 さなか、突然肘に激痛が走りました。なかなか痛みが去らないので医者に 何某は、賤しい男でありました。一生の間、殺生しました。殺したのは、 そうかしら、まだわかりませんとまた別の昔の人が語りました。 、だめなら往生のしかたを教えてくださいよ、と。そこで僧たちは七日 人の罪や過ちを語らない、自分をほめない人をけなさない、 男は草をなでつけてむしろを広げ、そっとすわって西を向き、 家族も隣人もその場でそれを見送りました。河原の荒れ地に着きま 屍の始末や何やらで家族に苦労かけると思うから、と。 河原に出かけていきま それから 施しを惜 獲って 、漁の

> した、 ばってごらんなさい。しばらくしてまた女が、さっきの僧も見えなくなりま なんです、救いたいと思う仏の願いを信じていさえすれば、自然と行き着く けっしてついていってはいけませんよ、浄土へ行くにはしるべなどいらないもの 道もわからない方角ですからわたしが案内してあげますよとおっしゃいます。 ちゃいけませんよ、いままでどおりただひたすら阿弥陀仏を念じて待つんで までの罪は犯してないんですからなおさらですよ、と聖がいいますと、 のみ名をやすまずとなえてごらんなさい、五逆を犯した人だってちゃんと導 恐ろしいようすの者たちが火の車をひいてきます、 められて念仏をしているうちに、 ところです、ひとりで行かなくちゃならない道だと覚悟して、 瑞々しい僧がそこに来て、さあいっしょにいきましょう、あなたの行くのは すると女はいいました。玉の車は消えましたけど、こんどは墨染めの衣の すよ、と聖が教えますと、女はさらに念仏をつづけました。またしばらく 奏でています、きっとわたしを迎えにきてくれたんですよ、 は消えました、きらきらひかるうつくしい車に天女がたくさん乗って音楽を ほどとうってかわってしあわせそうになりました。聖がききますと、火の車 うなずいて、また声を上げてとなえつづけました。しばらくすると女はさき かれて念仏を十ぺんとなえれば極楽に生まれるといいますよ、あなたはそこ たいと思う仏の願いと浄土に行きたいというあなたの願い、それを信じて仏 たがたと全身が震えてきました。いったい何が見えますかと聖がききますと いうときに、往生に導いてもらいたいと、聖を枕元に呼びました。聖にすす 或る女。 もう、だあれも、おりません、と。さあ今ですよ、と聖は励まして、 世間から離れて暮らしていましたが、病を得て、 女の顔色が悪くなり、まっさおになり、が と女はいいました。 と。それに乗っ いよいよ死ぬと もう少しがん 女は

議は、 うにもろもろの衆生は、苦しみを除かれて、救われる。その無限の不可思 ぜーしょーしゅーじょー。にょーいーじんりき。 ほうべんくーばつ。このよ わたしたちが、ただおだやかに野垂れ死ぬための道しるべ。

仏してごらんなさい、と。女は念仏を、四十ぺん、五十ぺん、六十ぺん、だ

この隙にさっさと行ってしまおうという心つもりで、集中して心をこめて念

んだん声が弱くなったかと思うとふっつり途切れて、そのとき息が絶えまし

\* 4 \* 三善為康さん (拾遺往生伝) 地蔵菩薩本願経を読む声

\* 2 \*

お名前は存じあげません(今昔物語集)

鴨長明さん (発心集)

伊藤比呂美 ① Ito Hirom

ひかる。『日本ノ霊異ナ話』『河原荒草』など著書・訳書多数。 談まで幅広い創作活動のなかで常に大胆かつ繊細な伊藤節が 55年生。詩人・作家。絵本原作、育児書から翻訳、



# 奇妙な入試情景 最終回

# 大西巨人

\*

経由しなくてはならなかったのです。 経由しなくてはならなかったのです。 経由しなくてはならなかったのです。

Q訓導の熱心な勧め・根気強い説得の結果、東山太郎の マ約一時間五十分の距離――の県立鏡山中学が選ばれたの は、次ぎのような二つの理由からであった。① 飲たとして 大郎の父親が旧知の県視学に頼んでいた就職の件が叶い、 大郎の父親が旧知の県視学に頼んでいた就職の件が叶い、 学校に勤めることになっていて、したがって東山一家は、 学校に勤めることになっていて、したがって東山一家は、

校」に数えられていた。
学〔旧藩黌〕と共に、鏡山県における三つの俗に言う「一流学〔旧藩黌〕と共に、鏡山県における三つの俗に言う「一流

東山太郎の母の弟(太郎の母方の叔父)一家が、鏡山市に年ごろ居住していまして、太郎は、尋小卒業学力認定試験日(春休み前半)の前日から、その叔父宅に行き、宿泊しました(両親は、転居準備中)。 尋小卒業学力認定試験当日の朝、東山太郎は、昼食辨当を持ち、一人で、鏡山中学へ行きました。鏡山中学の旧校舎は、その前年の夏、火災により消失し、当時は新校舎建設中。運動場の東隅にバラック二階建て三棟の仮り校舎が、設けられていた。その一棟の階下一教室が、試験場でした。 説けられていた。その一棟の階下一教室が、試験場でした。 説は、後日に知った、――は、太郎が父なり母なり近親なりの付き添いなしの「一人で来たこと」に、いささか不審

東山太郎は、尋小五修からの中学受験者が大ぜいいるとをなく考えていた。ところが、試験場の実地に来てみて、受験者が自分一人であること・がらんとした「定員五十名の教室」に試験官と自分と二人だけが向かい合っていることに、太郎は、ある面妖な感触を持ちました。

の口ぶりであったが、なにしろ試験場へ太郎を導いた。

午前十時十分~午前十一時 綴り方午前九時十分~午前十時 読み方



午後一時~午後一時五十分 算術 午前十一時十分~正午 修身

午後二時~午後二時五十分 地理および歴史

午後三時より 体格検査(校医による健康診断)

及落にかかわらず、一人もいなかったのです)。 書きであるのも、東山太郎には、受験者が自分一人である せいと思われ、ここでも太郎は、「ある面妖な感触」を持っ たのです。しかし、「走り書き」とか「ある面妖な感触」を持っ ち滅多にいない「尋小五修からの中学受験者」用の試験問 題(答案用紙)は、通例ガリ版印刷ではなくて、鉛筆かペ ンかの手書きだったのかもしれません(ちなみに、東山太 即の鏡山中学在校四年間、「尋小五修からの同校受験者」は、

兄が同行するべきことを、東山太郎に言った。 に結果を聞きに来るべきこと・その際には父兄ないし准父に結果を聞きに来るべきこと・その際には父兄ないし准父に は、明後日午前

た日、副校長(試験官)は、下のような諸点を口頭で告げた。東山太郎と太郎の母方の叔父とが試験結果を聞きに行っ

- 〈一〉学力は、問題なく合格である。
- 四年生並みでしかない。
- 〈三〉ただし、身体に、医学的異常は、認められない。

- 参加することを認める。
  参加することを認める。
- 学進学を希望するか否かを決定せられよ。に思案し、その上でなお太郎の尋小五修からの中

このような経緯で、東山太郎は、尋小五修から鏡山中学に入学したのでした。学力認定試験当日の情景が、最も如実に「尋小五修からの中学受験」の「ユニークな特色」を表象していて、「聴取者たちの願望に応えるような話」であり得る、と私は固く信じます。それゆえ、私は、そのことを話しました。

(おわ



大西巨人 ② Onishi Kyojin

大西巨人 ③ Onishi Kyojin

19年生。太平洋戦争での徴兵経験をもとに描いた長篇

中寿を過ぎてもみずからHPを持って新作小説を発表

・売すている。

#### 大杉重男 Osugi Shigeo

スピルバーグが芸者映画を撮る、どこで読んだのか忘れたが、そのような 情報をふと小耳にはさみ、ありえない組み合わせのように思えて、半信半疑 のまま是非見ようと思ってよく調べたら、「スピルバーグプロデュース」の、 別の監督の映画だということが分かり、出鼻をくじかれてがっかりしたが、 しかし年明けに金沢の徳田秋声記念館(去年の四月にオープンしたばかりで、 東廓に近く、鏡花の「滝の白糸」の碑がある梅の橋のたもとにたたずむ浅野 川の眺めの良い立派な建物である)の「縮図展」を見に行こうと思っていた 私は、最初についた意気込みが止められないまま、年末にその映画『SAYURI』 を見ることになった。

今時芸者映画などを撮って「名作」になることは金輪際ありえない。それ が「蝶々夫人」の系譜を引く西洋人による東洋の神秘の表象を反復した、誤 解と偏見に満ちたトンデモ映画になるであろうことを確信しつつ、どんな風 にトンデモなのかを確かめるためだけに映画館に足を運んだ私の期待を、確 かに作品は裏切らなかった。冒頭ヒロインが売られるまでは会話は日本語だ が、置屋に入ってからは全編英語で会話が進行する。それは異世界に入った ことを象徴しているのかもしれないが、日本人から見れば不自然極まりない。 舞台は京都の祇園ということになっているが、幼い頃のヒロインが逃亡を図 って屋根に上って見た町の風景は、日本というよりは中華風の、ちょっと『千 と千尋の神隠し」の町並みを連想させるような、国籍不明のアジア的雰囲気 を漂わせている。

だが年明けに大雪の金沢に行って「縮図展」を見た私は、『SAYURI』の日 本を単にリアルでないと切り捨てることもできないと思った。「縮図」は秋声 最後の長篇小説で、軍部の圧力で未完のまま中絶に追い込まれた因縁の小説 である。展示はささやかな小規模のものであったが、その中で印象的だった のは、「縮図」のヒロイン銀子のモデルである小林政子の写真である。おそら く芸者に成り立ての頃、置屋の主人夫婦らしき人と一緒に撮った写真(この 写真は遺族による転載許可が取れなかったので、それから数年後と見られる 写真を載せておく。もうすっかり芸者が板について貫禄十分の様子である) はなかなかきれいに撮れていて、そのちょっと人を小馬鹿にした生意気そう

な微笑みは、『SAYURI』のチャン・ツィイーやコン・リーと並べても違和感 がない気がした。戦前の日本は現在から見て思うような「日本的」な世界な のではなく、むしろ今よりもっと「アジア的」で雑種的な世界だったのでは ないか。

そしてこの雑種的世界の表象は、現在の東アジアの国境線の自明性を揺り 動かす危険な要素を持つ。北京の中国政府が『SAYURI』の中国での上演をそ の主役の芸者二人を中国人女優が演じていることを理由に禁止したのは、こ の意味で興味深い。報道によれば「中国人に旧日本軍の従軍慰安婦問題を思 い起こさせ、反日感情の悪化につながることが懸念される」のだそうだが、 **このことは「従軍慰安婦問題」が単に日本人の側だけの政治的責任問題とし** てあるのではなく、中国人自身にとってもある種の文化的トラウマになって いることを示している。「芸者」も「慰安婦」ももはやとうに存在しないが(「だ った」人はいる)、にもかかわらず「芸者」は「日本」の、「慰安婦」は「中国」 の象徴であり続けている。そしてそれらの表象から私たちが解放される時が あるとすれば、それは「日本」なり「中国」なりが真に国家や民族の主体と して自立する時ではなく、逆に「日本」や「中国」が現在の国家や民族であ ることを止める時であるだろう。

もちろん『SAYURI』はこうした問題を深く考えるのに適した映画ではなく、 他者に無関心なハリウッド的グローバリズムが、その素材を日本に求めた結 果できた偶然の産物であるが、同じ正月映画として上映されていた復活角川 映画第一弾の『男たちの大和』を見る私に、この日本人の兵隊たちをすべて 中国人(韓国人・朝鮮人でもいい)男優が演じたらどんなことになるのだろ うとあらぬ妄想に耽らせるほどのミスマッチの強度はあった。そしてその後

正直正銘のスピルバーグの新作『ミュンヘン』を見て、 主人公が美女の殺し屋の誘惑を自分は「インポ」だか らと断って難を逃れるシーンに、やはりスピルバーグ は家族思いのアメリカ市民であり芸者映画など間違っ ても撮るはずがないのだと再確認しつつ、そうであれ ばなおさら『SAYURI』を撮らせてみたかったと、怖い もの見たさの好奇心が沸いたのだった。冷

の

台座に立ったのち地上に降りてくるというの

な

腰ほどの

鉄柵に囲まれた八畳程度の台座が据

ここにひとつ、

高

い鉄塔が

である。

およそ百

メ

]

Ъ

ル。

天辺

には、

四

方

そんな鉄

をめぐるバイト話があ

ったとしよう。

時間

ほどたったひとりで、 えられている、

ح

がその仕事である。

難



提供:文京ふるさと歴史ஜ



#### 大杉重男 ⊙ Osugi Shigeo

渡

部

直

己

Watanabe

Naomi

65年生。文芸批評家、のつもりだが、あちこちで喧 嘩しすぎて書くところがなくなりつつある。しかし 妥協しないで書きたいことを書くつもりだ。

で

利

発

な

初

心

者

മ

た

め

の

現

代

思

想

入

門

0

 $\mathcal{O}$ 保証もなく、 もしれぬこと。 をあげるあなたは、 『存在と無』(一九四 てでもやりたいという人と、 Ì な作業が待っているわけでは たけは、 文障の )照しながら) 進 ・うサルトルに従えば、 作と化す。 こに変わるか、 しするだろうが、 (んで十万、 り下 由来は、 あなたじしんである。 る。その 時給なら、 セント確信していると仮定したうえで……あなたはさて、どのくら は 近んで戯 台座には、 は 可能性も皆無であり、 りにいかなる危険もな 雷雲の寄り来たる寸分の気配もなく晴れ渡り、 おろ あなたにつきまとうだろう。 人間の意識構造そのもののうちに 高みで、 れる人とい か、 百万? このバ それゆえ、 残りのすべ 根本的に予断を寄せ付けぬそのことが、 そうした誘惑に晒される おおよそ次のように見出されている。 そこには、 たとえば後者にあって、 IJ その あなたが イトを引き受けるだろうか。千円、 三年) コプター 請求時給額の幅の両端には、 うことにもなるわけ てが 9 )理由の理由を考えたことがあるだろうか……と 「自由」はたえず 峻 のジャ まり、 拒派 考えうるど ~百パ どんな大金を積まれても峻拒する人とが位 なく、 2本当に恐れているのは何なの 何よりも、 い。 か がの対 何 ンド 不意にその鉄柵から一 鉄塔も台座もきわめて頑丈。 ーセント かで運ばれ、 たんにそこに居ればよいだけ 極に位置する 次の ポ 当 の j ル 「自由」 安全だとしても、 「事者じしんがそのことを百 ようなヤ りだが、 一めまい」 峻拒の理由 . 瞬 (ヘーゲ サル 運び降ろされるとし を完封しうる ح 何を欲 の こちらから金を払 トル バさもない。 0) は をもたらすのだと ・ルとフッサー K 五千円、 人間 ヒッ は、 躍したくなる 自 同じ į 高所恐怖 か 由 そのヤバ そう語 チ の実存的 口のめま 何を為し、 **3** کے コッ 風 いかなる ぐっ 不慮 のな のバ É カ ıί n 5 て、  $\searrow$ 症 3 کے を 始  $\sigma$ イ か V パ  $\sigma$ 

06

# Suga Hidemi 実

主に「男女共同参画」をめぐってフェミニズムへのバックラッシュが、 保守派の側から頻出している。しかし、男女共同参画のいちヴァリエー ションである「女系天皇制」について、小泉首相が政策的に容認を謳わ なければならなかったという一事から見ても、このレベルにおけるフェ ミニズム的「気分」の進株は、良くも悪くも押しとどめようがあるまい。 それが秋篠宮妃懐妊というハプニングによって一時的に迂回を強いられ ることがあろうとも、である。しかし、男女共同参画法案とともにフェ ミニズム運動の現実的なもうひとつの「成果」である反セクシャルハラ スメントについては、今日、フェミニズムが思想的な隘路におちいって いるとすれば、そこに問題が集中的にあらわれていると思う。

周知のように、今日の日本のほとんどの大学には(もちろん、大学に 限らない)、セクハラ・ガイドラインが設定されている。実際、ガイド ライン設置以前には(今なお!?)、教員がその地位を利用してのロクで もないセクハラが横行していたことが知られている。ガイドラインが、 この種のセクハラを防止し処罰する上で、それなりの効果をもっている ことを否定しない。しかし、問題は誰もが感じているように、その次に ある。それは、セクハラの定義が、あたかもドナルド・ジャッドが現代 芸術について言ったように、「それをセクハラだと言えば、それがセク ハラだ」というところにしかないということだ。だとすれば、つまると ころ、「何もしないこと」においてのみ、セクハラは回避されるという ことでしかないからである。

ところが奇妙なことに、多くの大学において、教員と学生との結婚は

間

は人間の

あとを絶たない。まさか、その二人は結婚するまでに「何もしなかった」 わけではないだろう。もし一方が (多くの場合、学生が)、結婚以前に 痴話喧嘩でもして他方(教員)を告発したなら、それはセクハラとして 断罪されることになる可能性がきわめて高い。だとすれば、セクハラ・ ガイドラインは教員と学生の結婚も禁ずるべきではないだろうか。結婚 にいたる過程で痴話喧嘩もなかった関係は、まず考えられないから、そ こでは変観的にもセクハラが行われていたはずだと事後的に言えるから である (結婚したら、そのカップルについて調査してみたら良いだろう)。 しかしもちろん、現行の法体系のなかで、そのようなセクハラ・ガイド ラインを設定することは無理である。

フェミニズムのみならず、すべての PC (ポリティカリー・コレクト) 的立場は、何もしないこと、つまり「接触」を禁ずることによって「正 しさ」を保証してしまう(差別語の「言い換え」問題を見よ)。しかし 残念ながら、われわれ人間は、接触せず何もしないでいることが不可能 でもある存在なのだ。もしセクハラで告発されたら、「革命無罪」(毛沢 東)と同じ意味で「恋愛無罪」と主張するべきだろう(それが可能な「セ クハラ」ならば、だが)。革命と同様、それは必ず「ある」からだ。セ クハラを指弾する PC 的フェミニズムに欠けているのは「恋愛無罪」と いう視点であり、これを欠落させた時、それは「革命有罪」を主張しか ねないからである。

昨年 12 月 20 日、早稲田大学の文学部キャンパ スで大学当局への抗議ビラを撒いていた人間が、 教員によって警察が導入され、逮捕されるという 事件が起こった (詳しくは http://wasedadetaiho. web.fc2.com/i/top.htm 参照)。これもまた、大 学を「何もしない」空間として維持しようとする 企図が、「革命有罪」へと転じてしまうという一 例である。🛭

す

無

なのだと、

た カン

は

から次

いに何

隔たりこそが、

を吐くの ものであり、

だがが



同

時に、

カン

すな

なわち、

意識の志向性、

およびその二重化。

意識がつね

何



そ、

では、

絓秀実 ⊙ Suga Hidemi

49 年生。批評家として革命の思想に精根を傾けつつ「そ んなもの来ませんよ」と笑い飛ばしもする男。『革命的 な、あまりに革命的な (作品社) の姉妹編となる書き 下ろし(ちくま新書、今秋刊)『1968年』(仮)を脱稿。

ならぬこと。

げ

にマンマ

П



『存在と無』(上・下) 人文書院

ある」 を る。 ح の いうの 割愛する。 粋な現われ」 使 展開してゆくのだが、 川法 れらは畢竟、 その ようにして れの場合も、 命 喝 が、 人間 破しつつも、 間 (「自己拘束」= Þ ひとつ ここではとりあえず、 「役割」 のうちに、 ケ をデカル 自由 ームなり、 大なり小なり「自己欺瞞」にすぎぬとサルトルは喝破 対自の裂け目はふさがれ、 の解決法である。 をしかと感ずることが出来るなら、 彼はそこで、 一のめま トふらの前提となすゆえのその限界にかんしては、 「社会参加」) 展開における 鉄柵のスケッ 5 を懐柔しながら生きてもいる 同じ かように や、 そのバイト チなり、 欺瞞 種 これに絡む の 現にわれわれは、 「自由であるべく罰せら ぬるさ、 の、 何 に、 かに没頭し 意識そのものの いわば積極的肯定的 何らかの 他者 それも一 しば の問題など っづ 目 わけだ 策。 り しばそ 的 ると 純 が、 Þ Ť い



「WB」は、「愉しい文学」という、80年代前半に浅田彰さん たちが作っていた「GS」という雑誌に準えたコピーを巻頭に掲 げているけれど、もちろんたのしいばかりが文学じゃなく(現場に いるとしんどいことのほうがずっと多いし)、そもそも「政治と文学」 は永遠のテーマである以上、避けて通ろうと思うほうが無理とい うものだ。いや、避けようにも文学部から編集室にむかう目の 前でデモやビラ撒きが行われているのだから、とうてい無視を決 めこむべくもない。そこで交わされる議論について「なぜWBは 触れないか」と書くひともいたと聞くけれど、私見について別誌 原稿の一節で触れ、一定の事情も聞き調べたうえで中立の第 三者も立てての企画を考えもしたものの、誌面構成の最終判 断においては、幅広い読者には現状いささかローカルすぎて映 るように懸念されてならなかった。 対立する両論どちらの肩を持 つでなくとも、そこには考えるべき現在の問題が内在するはずだ が、そんなわけで本誌3号の誌面では、温めていた別企画「世 界・運動・文学」を始めることにした。とはいえ、遠からず活 字化の予定もあると聞く絓秀実氏の論考「ボスト自治空間」は、 きわめてブリリアントな論考ゆえ、興味のある方には一読をお

Shock!! Issue vol.03

2006 年3 月15日発行(隔月刊)

Published by 土田健次郎

Edited by

芳川泰久

青山南 江山直紀

目選哉

十重田裕一 三田誠広

松田茜 山本浩司 伊藤廌林

佐伯悠

**森太翔**子

中村太一

村田知嘉子

空山羊

小倉潤也

山田帝司

市川真人

cial thanks to 青木誠也

笠原大希

長谷部和美

奥定泰之 Photograph 松蔭浩之

編集·発行 早稲田文学会/早稲田文学編集室

169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-7-10 TEL/FAX 03-3200-7960

Mail wbinfo@bungaku.net

(株)早稲田大学メディアミックス

169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-1-7

TEL 03-3203-3308 FAX 03-3202-5935

日本語による文学・哲学・芸術表現の普及をめざすフリー ーバー「WB」では、主旨に賛同・応援してくださる個人 や企業のみなさまからの、広告出稿や配布場所提供などに よるご助力を求めています(広告収入は部数と配布箇所の 拡大のために用いられます)。 関心をお持ちくださったかた

は、小誌編集室までご一報いただければさいわいです。

大活字をご希望のかたには、本誌の拡大版(A3版カラー・ 24 枚刷り) をプリント費用+送料実費でお届けします。 詳 しくはお電話・メールにてお問い合わせください。 また、WB 第 1 号・第 2 号は 4 月中旬以降、小誌サイト www.bungaku.net/wasebun で公開の予定です。

次号は5月15日ごろの発行予定です。

「WB」は、店舗・公共施設・各種学校など様々なスペースを運営している方々による 設置場所のご提供と、各店舗へのお願いに力を貸してくださった個人・企業のみなさま のご協力により、全国約500ヶ所(2006年3月現在)で配布されています。

#### ○設置協力……

【北海道】ブックオフ網表生/代々木ゼミナールライブラリー料幅生/ DOZE /ブックオフ代去生/北海道大学生協/北海道大学生協書籍部北部生/料幅大学生協/三名学 書店/大丸札幌店/東京旭屋書店札幌店/リーブルなにわ/喜久屋書店小構店/いわた書店【青森】成田本店しんまち店/【岩手】ブックオフ岩手花巻店/ブックスアメリカン 北上店/東山堂三ツ割店/LIFE&ART 青空【宮城】ブックオフ宮城利府店/代々木ゼミナールライブラリー仙台店/ジュンク堂書店仙台ロフト店/あゆみブックス仙台店/金港 堂石巻店/紀伊国屋書店仙台店/ジュンク堂書店仙台店【秋田】秋田県立図書館【福島】ブックオフ郡山桜通り店/宮脇書店ヨークタウン野田店/福島県立図書館【茨城】ゆ うき図書館【栃木】宇都宮ビジネス電子専門学校・宇都宮アート&スポーツ専門学校/紀伊国屋書店宇都宮店/喜久屋書店宇都宮店【群馬】シネマテークたかさき/戸田書店前 橋本店【埼玉】埼玉県立久喜図書館/早稲田大学生協所沢キャンバス店/ジュンク堂書店大宮ロフト店【千葉】浦安市立中央図書館/紀伊国屋書店松戸伊勢丹店/代々木ゼ ミナールライブラリー津田沼店/ときわ書房本店/ときわ書房本八幡店/千葉市立中央図書館【東京】武蔵野美術大学/古書往来座/日本近代文学館/東京都江戸東京博物 館/東京党書店/有職党書店日里店/有職党書店アトレ東比事店/有職党書店角戸エルナード店/有職党書店ルミネ町田店/早稲田大学コーププラザブックセンター/風花/ 文島舎/青山ブックセンター青山本店/青山ブックセンター六本木店/青山ブックセンター自由が丘店/早稲田大学エクステンションセンター/丸善丸の内本店/竹隆庵岡埜/早 稲田大学大隈会館 1F / ブックオフ福生店 / 代々木ゼミナールライブラリー本店 / ハートランド / CAFE SEE MORE GRASS / combine cafe retro /トリックスター/ BERG / アップリンクファクトリー/ 中野書店/ JAKE HOUSE / JAKE'S GALLERY 銀座店/町田市立中央図書 館/成文堂早稲田駅前店/犀門/古書ほうろう/早稲田大学生協戸山キャンパス店/三省堂書店神田本店/ブックファーストルミネ2店/

ハウス/都立多摩図書館/青年劇場/ブックファースト大井町店/文鳥堂書店牛込本店/リブロ池袋パルコ店/金港堂書店/オリオン書房 ノルテ店/三早堂太店北野店/ジュンク堂書店池袋店/あおい書店高田馬場店/模索舎/書原杉並店/中日里ブックヤンター/ 右隣党事作新存住/憎用事作业口住/政文党/ブックファーストル>え1 庄/リブロ池袋太庄/紀伊国民事庄新存南庄/文 教堂書店渋谷店/リブロ光が丘店/近藤書店朝日店/文教堂書店霞ヶ関店/東京ランダムウォーク赤坂店/東京大学消費 生協本郷書籍部/あおい書店新宿店/ジュンク堂書店プレスセンター店/東京学芸大学生活協同組合/放文社/東京ラン ダムウォーク神田店/あゆみ Books 八王子店/くまざわ書店錦糸町店/オリオン書房ルミネ店/三省堂書店八王子店/ジ ュンク堂書店新宿店/東京旭屋書店水道橋店/有隣堂アトレ大井町店/往来堂書店/紀伊国屋書店玉川高島屋店/オ リオン書房アレア店/ブックガーデンディラ上野店/リブロ渋谷店/芳林堂書店/駒草書林/紀伊国屋書店国分寺店/ こまばアゴラ劇場 / JAZZ ペーぱーむーん / 書肆アクセス / 西秋書店 / Pois e' /システム販売株式会社 / 二松学舎 大学付属図書館【神奈川】有陸堂書店本店/有陸堂書店構浜駅西口店/有陸堂書店ルミネ構浜店/有陸堂書店

HAGA / 紀伊国屋書店新宿本店 / am/pm 豊島要町店 / 早稲田松竹 / 信愛書店 / 高円寺文庫センター / 下板書房 / 喇嘛舎 / セッション

ミウィ橋本店/たらば書房/ダムトラックスカフェ/代々木ゼミナールライブラリー横浜店/藤沢市南市民図書館/ 葉祥明美術館/神奈川近代文学館/丸善横浜ポルタ店/栄松堂書店ジョイナス店/啓文堂書店相模 原店/紀伊国屋書店横浜店/藤沢市湘南大庭市民図書館/藤沢市辻堂市民図書館/

藤沢市総合市民図書館/有職堂書店厚木店【新潟】代々木ゼミナールライブラリ

新潟店/知遊堂赤道店/知遊堂三条店/

本の店英進堂/戸田書店新潟南

店/北米社

【石川】岩本清商店/コラボン/あうん堂/金沢 美術工芸大学/金沢 21 世紀美術館/金沢シネモ ンド / ギャラリートネリコ /リブロ全沢庄 /ヴィレッジ・ ヴァンガード金沢ラブロ店【山梨】 山梨県立文学館【長野】 ブックオフ飯田かなえ店【静岡】 ブックオフ静岡流通通り 店/谷島屋書店静岡本部/戸田書店藤枝店/戸田書

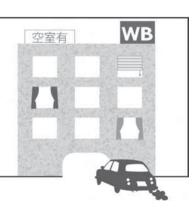
店静岡本店/佐塚書店【愛知】kinder book /代々木ゼミナールライブラリー名古屋店/三省堂書店名古屋高島屋店/ちくさ正文館/名古屋 シネマテーク/ジュンク学書店名古屋店/安藤書店/らくだ書店東郷店/ブックセンター名豊緑店/いまじん南陽通り店/鎌倉文庫第三店/カルコス小牧店/ ウニタ書店/愛知淑徳大学図書館星が丘分館/ブックセンター名豊刈谷店/紀伊国屋書店ロフト名古屋店/愛知県立大学生協書籍店/名古屋大学生協書籍 部南部店/愛知教育大学生協 eM 書籍/中京大学生協ブラザリーブル/中京大学生協ブラザドゥ[三重] 宮脇書店四日市本店/宮脇書店鈴鹿店/宮脇書店糸展店 店/三重大学生協翠陵店【滋賀】滋賀県立図書館【京都】代々木ゼミナールライブラリー京都店/オバール/京都みなみ会館/はせいち新田辺店/京都芸術センタ

アートスペース/ニュートロン/ギャラリーそわか/ブックファースト京都店/三月書房/ジュンク堂書店京都店/立命館生協存心館ブック&サービス/恵文社一乗寺店/ガケ書房/ MEDIA SHOP / USED BOOK BEE[大阪] 近畿大学図書館/代々木ゼミナールライブラリー大阪店/代々木ゼミナールライブラリー大阪南店/大阪府立現代美術センター/大阪 シネ・ヌーヴォ / ヒバリヤ書店本店 / 第七藝術劇場 / GALLERY wks. / katarina K / inkink / ジュンク堂書店大阪本店 / ジュンク堂書店難波店 / 喜久屋書店阿倍野店 / ブック ファーストなんばウォーク店/紀伊国屋書店本町店/リブロ江坂店/紀伊国屋書店梅田本店/大阪アーツアボリア/ナンバ古本文化井学園/矢野書房/山羊ブックス/天地書房/ タワーレコード難波店/岡田書店/古本のオギノ/大阪府立中央図書館【兵庫】兵庫県立図書館/関西学院大学生協書籍部/神戸アートビレッジセンターアートスペース/楽学書館・ Begin /海文堂書店/ブックファースト宝塚店/ジュンク堂書店三宮駅前店/ジュンク堂書店三宮店/ HEP HALL【奈良】 ギャラリー OUT of PLACE /大学堂【和歌山】宮脇書店 ロイネット和歌山店[鳥取] 米子工業専門学校/本の学校今井ブックセンター/青杏文庫/定有堂書店/今井書店吉成店[島根] 今井書店グループセンター店[岡山] 岡山県立図書 館/宇吉堂【広島】 ブックオフ広島相田店/フタバ図書 MEGA /啓文社ボートプラザ店/フタバ図書 TERA 広島府中店【山口】 宮脇書店宇部店/梅光学院生涯学習センター【愛媛】 愛媛大学生協城北ショップ/紀伊国屋書店松山店【福岡】青山ブックセンター福岡店/代々木ゼミナールライブラリー福岡店/ギャルリー・プードリアン/ Fortuna / 丸善福岡ビル店 / Fortuna concept /福家書店博多店/ジュンク堂書店福岡店/紀伊国屋書店福岡本店[熊本] 葉祥明阿蘇高原絵本美術館/紀伊国屋書店/熊本光の森店【大分】大分県立 図書館/明林堂書店大分本店/ジュンク堂書店大分店【鹿児島】ブックジャングル【沖縄】ブックオフ那覇小禄店/田園書房宜野湾店【海外】紀伊国屋書店シアトル店 ほか ◎協賛サポート…【東京】竹隆庵岡埜(台東区・和菓子店) / 文鳥舎(三鷹市・カフェ) / 風花(新宿区・バー) / 作品社(千代田区・出版社) / 株式会社 JL(杉並区・配送業)【栃 木】宇都宮ビジネス電子専門学校・宇都宮アート&スポーツ専門学校(宇都宮市・専門学校)

設置・配布場所の詳細は、WBのサイトwww.bungaku.net/wasebunをご覧になるか、小誌編集室(TEL/FAX 03-3200-7960) までお問 い合わせください。実費(1000円)による1年間・6冊の直接購読も承っております。また、あらたに設置場所をご提供いただける場合がござ いましたら、上記連絡先もしくは wbpost@bungaku.net までご一報いただければさいわいです。

「WB」では、広告出稿をご希望になる企業・団体、個人 および、広告のお取り扱いをしてくださる代理店の 募集をしております。

詳細につきましては、左記編集室までお気軽に。



現代作家が選ぶ世界の名作 ⑥第三回 選・山田詠美

父の乳息子におくる「夏

獅子文六

た。 その時、私は、日本橋の叔母の家へ、遊びに行ってい

取母の良人は、医師であり、医院は、賑やかな下町に を定というものは、人の出入りが多く、家に住む人の数 を院というものは、人の出入りが多く、家に住む人の数 を院というものは、人の出入りが多く、家に住む人の数 をた。しかし、叔母の家は、すべて反対だった。それに、 を院というものは、人の出入りが多く、家に住む人の数 をなる。 しかし、叔母の家は、まつ暗になり、梟の声が聞 をた。しかし、叔母の家は、まつ暗になり、梟の声が聞 をた。しかし、叔母の家は、まつ暗になり、梟の声が聞 をた。しかし、叔母の家は、まつ暗になり、梟の声が聞 をた。しかし、叔母の家は、まつ暗になり、梟の声が聞 をた。しかし、叔母の家は、まつ暗になり、梟の声が聞 をいうものは、人の出入りが多く、家に住む人の数

むと、すぐ、分けて入った。そして、が、私を乱暴者視して、私がハルちゃんに相撲なぞいどのに、赤ン坊の時からいる乳母が、まだ雇われていた)

らっしゃい」「坊ちゃん、顔をひっかかれないように、手で抑えてい

思うと、立った尾の下から、馬糞を吐き出すのが、 また、走ってる間に、馬の尻の様子がおかしくなったと と、豆腐屋の余り水だという濁った水を、馬に飲ませた。 子が、よく見えた。本石町あたりの大きな停車場へぐる 等の方は前方であるから、二頭の馬を御者が走らせる様 小さな車体でも、座席は、上等と並等に分れていて、上 力車とは、まるで、乗り心地がちがうのである。そんな よりずっと小型だが、レールの上を走るという点で、人 もなく、好奇心をそそった。車体は、電車に似て、それ **う乗り物を利用するのが、常だったが、これが、とてつ** へ着いて、日本橋の叔母の家へ行くには、鉄道馬車とい 行くのは、大変な魅力だった。汽車に乗って、東京へ行 母は憎らしくても、ハルちゃんに反感は持たなかった。 は、明治三十五年の夏のことであって、 京だけだった。しかし、私がよく乗ったのは、もう末期 い乗り物はなく、また、全国で鉄道馬車のあるのは、東 上野の大通りを走ってたのである。当時、これ以上の速 糞だらけだったろう。鉄道馬車は、 アリと見えた。当時の東京の目抜き通りは、恐らく、馬 くというだけでも、うれしいのである。そして、新橋駅 出ている 出したのは、 るようになった。(私が、冒頭に、、その時、と書いたの とにかく、私にとって、横浜から、叔母の家へ遊びに と、いった。私は、それが、癪でならなかったが、 間もなく、 翌年の七月であると、「明治事物起原」に 東京市営の電車が、同じコースを走 銀座、日本橋、浅草、 東京市電の走り アリ 乳

未だに腑に落ちないのは、なぜ、私が、その時に、叔母そういうことは、調べればすぐわかるが、どうしても、

の家に遊びに行ってたか、ということである。また、その家に遊びに行ってたか、出かが連れて行東京の叔母の家へ遊びに行っていたのか。勿論、私一人東京の叔母の家へ遊びに行っていたのか。勿論、私一人で、東京へ出かけられる年齢ではなく、誰かが連れて行ってくれたのにちがいないが、私の家で、よく、許してくれたと思うのである。

というのは、その頃、私の父は、死の床についていた。 というのは、その頃、私の父は、死の床についていた。 とれ病気で、もう一年も寝たきりなので、 概創ができ、 リゾールとコロジュームとかいう薬を、 毎日塗るので、 リゾールとコロジュームとかいう薬を、 毎日塗るので、 リゾールとコロジュームとかいう薬を、 毎日塗るので、 リゾールとコロジュームとかいう薬を、 毎日塗るので、 中気 脳神経の病気で、 もう一年も寝たきりなので、 概創ができ、 リゾールとコロジュームとかいう薬を、 毎日塗るので、 中気 脳神経の病気で、 もっというのは、その頃、私の父は、死の床についていた。

その臭いを、私は嫌悪しなかった。むしろ、父の臭いをのような気がしていた。私は、父が好きであった。私を、可愛がってくれたからである。それも、手放しの可愛いがり方であって、親類の間の笑い草になってるということだった。そんな父が、病気になったことは、悲しさの形で感じる年齢ではなかったが、不安の感情はあった。不安は、子供の本能が味わうのだろう。

寒い、雪催いの曇天だったことも、覚えてる。 なぜ、そんなことを、正確にいえるかというと、そる。なぜ、そんなことを、正確にいえるかというと、その時に、福沢の同郷人であり、また、その門下生だった。 せれで、福沢の葬式の時には、もうすでに体の不調が始 まっていたのを、押して出席したのである。もっとも、 まっていたのを、押して出席したのである。もっとも、 まっていたのを、押して出席したのである。もっとも、 まっていたのを、押して出席したのである。 をかされて、名は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数え年九つであったのに、アリア いった。私は、まだ、数えを非に残ってる。その日が、 りと、その日の父の紋服姿が、眼に残ってる。その日が、

く見えないことを、吉井という人に訴えたらしい。 暮れ方で、品川駅の灯火が輝き出したのに、それが、よ 汽車に乗ろうとしたらしい。ところが、もう、冬の日の 父は、葬儀の帰途、横浜へ帰るために、品川駅から、

に向って、とを、母に報告したにちがいない。夜食の膳についた父ら。父が家へ帰ってきて、吉井という人が、品川駅のこくの視力の衰えは、その時から、格段となったのだろ

「あなた、これが、見えますか」

、透かして見せたことを、私は覚えている。と、母が赤ブドー酒を充たしたグラスを、ランプの灯

その頃は、わが家の灯火は、石油ランプだった。居留地にあった店の方では、ガス灯をつけていたが、一般の光りの側に、母は、グラスを持ってった。父の視力が弱ってから、見易いようにと、日本酒をやめて、赤ブドー酒に替えたらしい。父は、酒飲みというほどの酒量ではなかったが、晩酌はやっていたらしい。その上、摂生はなかったが、晩酌はやっていたらしい。その上、摂生なかったから、薬酒とされていたブドー酒に切り替えることに、不服はなかったのだろう。

ついに、父に識別できなかったのである。どく、暗澹としていた。なぜなら、ブドー酒の赤い色が、ひく、暗澹としていた。なぜなら、ブドー酒の赤い色が、ひ

グチをこぼした。

あんなに悪くなれァしなかったんだよ……」「あの時、出かけさえしなけれァ、お父つァんの病気も、

気らしいからである。 途をたどったろう。根の深いところで、蝕ばんでいた病かったとしても、遅かれ早かれ、父の病気は、悪化の一いかし、そんなこともあるまい。福沢の葬式に、出な

その時分から、父は、病床につくことになったと思う

のだろう 用心だった。だから、父は、単に視力の衰えばかりでな 車の梶棒をおろした時に、 12 力車が必要だった。それは、普通の人力車の座席の前側 通っていたようだったが、健康が衰えてから、 横浜の西の果てから東の果てにあって、人力車を用いて、 にあった店に、 のだが、それまでは、時には、 その時分から、もう運動神経の方も、 赤いビロードのついた鉄のワクをとりつけたもので、 出動していた。 父の体が転び落ちないための 居留地(今の山下町界隈 距離からいっても、 犯されていた 特別の人 昔の

私の家は、特製人力車を買うことはできても、常雇いの車夫を置くほど、富んではいなかったのだろう。そのの車夫を置くほど、富んではいなかったのだろう。その毛坂を登る時には、車の後押しを要した。それを煩わし毛坂を登る時には、車の後押しを要した。それを煩わしまうだが、発病してからは、それができなくなり、わがようだが、発病してからは、それができなくなり、わがようだが、発病してからは、それができなくなり、わがようだが、発病してからは、それができなくなり、わがようだが、発病してからは、それができなくなり、わがようだが、発病してからは、

ある日、威勢のいい、若い車夫が輓きにきて、私も一きる日、威勢のいい、若い車夫が輓きにきて、私は、家の車に、父と同乗することができて、大得意だったと思の車に、父と同乗することができて、大得意だったと思の車に、父と同乗することができて、大得意だったと思れた。

父の店は、絹製品の海外輸出や、外人を顧客とするシルク・ストア(絹物小売店)をやっていたから、商品を陳列する部分と、事務をとる部分と、分れていたが、事務をの方は暗く、殺風景だった。そこに、大きな石炭ストーブがあり、父専用のひじかけイスが、側に置いてあったが、健康な時の父は、陳列場の方を歩き廻り、滅多つたが、健康な時の父は、陳列場の方を歩き廻り、滅多いたが、単列するが、外人を顧客とするシルク・ストア(絹物・一般)を開客とするシルク・ストア(絹物・一般)を開客とするシルク・ストア(編集)というに、

かけたきりだった。そして、洋服をやめて、和服に袴をところが、その日の父は、ストーブの側のイスに、腰

その時の様子は、 怖れるように、黙っていた。 人で、 たれるようにして、 好んだのだろう)、ステッキを脚の間に立て、それに凭 はいて(武士出身の父は、 った。子供心にも、私は、父の変り方を知った。 て、茫然としてるのか、とにかく、とても、 で、病気と闘ってるのか、それとも、もう、力尽き果て 口をきかなかった。周囲の店の人たちも、 沈黙院というアダ名をつけられるほどだったが、 まるで、平常とちがっていた。 眼を閉じ、いつまでも、 商人のくせに、そんな服装を 父は、 一体、 そういう父を 口数の少ない いつまでも、 暗い印象だ

がなかった。

がなかった。

ない、その日の帰途に、車の上で、私は、衰えたける、ネダリゴトは、大てい背いてくれるのだが、それけるかった。その日の帰途に、車の上で、私は、衰えたはなかった。その日の帰途に、車の上で、私は、衰えたはなかった。

「ああ、いいよ」

本町通りの横に、金丸鉄砲店という店があった。そこ本町通りの横に、金丸鉄砲店という店があったと思う。横くれた。その時、父は、代金を払わなかったと思う。横くれた。その時、父は、代金を払わなかったと思う。横

父を叱るのである。

なは、大喜びで家に帰ったのだが、空気銃を見て、母れば、大喜びで家に帰ったのだが、空気銃を見て、母れば、大喜びで家に帰ったのだが、空気銃を見て、母

なのである。よほど、気力も、体力も、衰えていたのだいう方の人ではなかったのに、その日は、全然、無抵抗らかというと、父は気むずかしく、妻の尻に敷かれるとらかというと、父は気むずかしく、妻の尻に敷かれると

あった。 衰弱につけ込んで、そんなものを買わした、気の咎めも 母が憎く、 父が可哀そうになった。また、 父の

「いらなきや、お返し」 「こんな空気銃、いらないよ 私は、母のところへ持っていった

空気銃は、とりあげられてしまった。

て、左手の親指を、深く切った。ずいぶん血が出て、 も、ちっとも当らないし、そのうち、バネをかけ損なっ 何か、ケチのついた空気銃になってしまった。射撃して 今となっては、見当もつきかねるが、やがて、いつ見て 距りはなかったと思われるが――或いは、どっちが先か、 の手触りや、重さまで、思い出すことができるのである。 私の記憶に残ってる。その時から六十年以上経ち、私が かった。そして、癒着するまでに、長い時間がかかった。 古稀を過ぎた今日でも、その空気銃の型や、銀色の鋳鉄 その日から、父が福沢論吉の葬式に出るまでに、長い しかし、その空気銃は、父の生涯の最後の贈物として、 病床に寝てる人になってしまった。 後になって、空気銃は、私の手に返ったけれど、

ずいぶん大きかった。そして、布団から、仰向きの顔だ なかったのだろう。また、父は、何も、ものをいわず、 その上、四肢の自由まで奪われて、それで、身動きをし け出して、まるで、仏の臥像のように、いつも、同じ姿 黄色い色が、眼に残ってる。巨体であるから、布団も、 瞼を閉じるのか、昏睡なのかー 勢だった。視力は、まったく、失われていたのだろう。 側に誰かいては、恥ずかしくて、やれなかったが、父と して、その試験をしたことが、何度かあった。もっとも リをしてるのではないかと、考えられた。私は、父に対 人になったということは信じられず、わざと、眠ったフ 病床の掛け布団は、 眼を閉じていた。それは、眼が見えないから、 黄八丈のようなものであったが -子供の私には、父が廃

> 二人きりの時を見計らって、 「お父つァん……」

と、呼ぶのである。

出典·『獅子文六集 新潮日本文学 24

山田詠美

うのです。そして与える父の乳 (駄洒落か)。 奥泉光の子煩悩 **うーん、見直しましたよ、文豪! 彼の文章の特長として「~** 文六先生が六十歳を過ぎてから授かった男の子とはいえ、よ えないほどの大甘、いやそれ以上の極甘。しかもべたべた。 うですが、違うんですよ、これが。とても、明治の男とは思 父の背中を見て育てよ息子小説」か、などと誤解を招きそ 丹念に正確に書き綴った傑作です。などと言うと、はーん、「親 何たって、初めての男の子を〈愛してる。〉 と言い切ってしま 気になっていたのですが、ここでは、それが見事に生きている。 くもまあこんなにも臆面もなく愛情さらけ出しちゃって…… よりさらに上を行っています している」を「~してる」と書いてしまうというのがあり、常々 して、自分の息子へと引き継いで行くものを私小説の形式で 「マジメ小説」 です。 自分の父親から引き継がれたもの、 食に関しては、壇一雄先生に続き師と仰ぐ獅子文六先生の



# 狮子文六 ③ Shishi Bunroku

り上」からきたという説と、 ない」と言われた。筆名は、「文豪(ぶんご) の人気から一店頭にこの書物を見出したことが 本名の岩田豊雄名義で発表した「海軍」は、 モアと風刺のきいた作風で人気を博したほか、 が、生活のために大衆小説を書き始める。ユー 保田万太郎、岸田国士と共に劇団文学座を興す 一八九三―一九六九。戯曲執筆や翻訳の傍ら久 「四×四=十六」

山田詠美 ② Yamada Amy

で直木賞、風味絶佳』で谷崎潤一郎賞を受賞、古 |ソウル・ミュージック・ラバーズ・オンリー ト、児童文学まで幅広く牽引しつづけている。 の日本文学を、純文学からエンターテインメン ときに繊細に、またときに獰猛に。 59年生。小説家。ときに厳しくときに優しく 80年代以隆

> 思想読本中中国•韓国•台湾•日本 共同編集

孫歌·白永瑞·陳光興

ア共同体……混迷を極める〈東アジ

、歴史的桎梏を超え、新たな像を結ぶことができるのか?

田原総一朗•大澤真幸•北田暁大•宮沢章夫•斎藤貴男•姜尚中•重松 §直化し混迷する現在に、思考停止しない、考える「個」であるために ・鴻上尚史…他全31人との25の対話。**好評発売中!**\*-785円

格社会派ミステリー・ 権主義に爛れた現代日本に対峙する

伊藤昌洋 に銭洗い(マネーロンダリング)を行う悪徳 法律事務所だった…… 室町幕府三代将軍、足利義

黒須紀一郎れる日本史の謎を解く瞠目 〜殺したのは誰か? 諸説乱 満。天皇を超えたこの男を の歴史小説。 \*1890円

\*2100円 乗越たかお

(ダンスファン必携!

く性の神秘のべ 涛の売れ行き忽ち10 を刺ぐ

イェルト・ドレント 塩崎香織 訳

蔵図版

2520H

## 『at』とオルター・トレード・ジャパン

#### 秋山直兄

Akiyama Naoe

『at | 発行人/日本ネグロス・キャンペーン委員会運営委員長



〈もう一つの回路〉を求め季刊誌『at』(クォータリー「あっと]) を、昨年か ら刊行を始め、3月末に4冊目が出る。柄谷行人氏の連載「革命と反復」はこ れまでのロシア革命史観に対して、上野千鶴子氏の連載「ケアの社会学」はこ れまでの「家族介護」について、それぞれ新しい視点から挑戦的テーゼを提起 してくれている。吉岡忍・吉田司両氏は、今日の世界的な問題や世情の有様を 鋭く切り裂く、まことに痛快な連載対談をしてくれている。また、大西巨人氏 による小文「春秋の花」の連載や、高橋源一郎氏、梁石日氏、森達也氏の登場 など、この季刊誌を発行しようと考えた私の当初の構想では考えもしなかった ことが実現し、驚くとともにありがたく思っている。

各号の特集として「グローバリズムを遠く離れて」「バナナから見える世界」 「新しい協同の時代へ」、そして今回は「コーヒー」を取り上げる。これらの特 集では学術的な考察と、市民の実践・運動の現場からの視点が交差することを 狙っている。この交差を試みることが、実はこの季刊誌を発行しようとした意 図でもある。そして、それを「バナナ」「コーヒー」という「もの」を介在さ せて行うことも当初からの意図であった。

そもそも、『at』の編集をしている(株)オルター・トレード・ジャパン(ATJ) とは、一言でいえば、南の諸国の生産者と日本の消費者が直接結びあう「食べ 物運動 | を目指している会社である。20年前、フィリピンのネグロス島で地主 から切り捨てられ、飢餓に襲われたサトウキビ・プランテーションの労働者へ の緊急支援を開始した。数年後には、彼らの裏庭で育っていたバナナを日本の 人たちに買ってもらい、その代金で農園労働者や零細農民の暮らしの改善をは かり、村おこしを行う活動へと展開した。その交易事業を行うために、生協・ 産直団体・市民団体によって 1989 年に ATJ が設立された。ATJ の交易事業は

日本初の無農薬バナナ輸入から始まり、今では粗放養殖エビ (インドネシア)。 有機栽培や化学肥料を使用しないコーヒー (東チモール、ラオス、中南米)、オ リーブオイル (パレスチナ) などへと展開している。つまり、具体的な「もの(生 産物)」を通し、民衆経済(交易)を媒介にして南の生産者と北の消費者が直接 出会い、グローバリゼーションに抗した暮らしと地域の新しいあり方を創り出 そうという事業である。

この事業の端緒になった「飢餓救援」の際、私たちが心したことは食料や医 薬品の支援ということとともに、飢餓を生み出す社会的構造は何なのか、それ

> を変えるにはどうすればよいのかを問い 続けようということであった。そして 20 年、自問しながら民衆交易事業や村おこ しへの支援を継続してきたが、さらに広 い視野からその事業・運動を検証し、新 しい展開を模索し提言していく責任があ るのではないか。それが季刊誌『at』を 刊行しようとしたそもそもの意図であっ た。それが思いがけず多十済々の方々の 協力を得ることができ、新しい言説空間 を生み出せたのではないかと、様々な反 響から伺え嬉しく思っている。

●『at』の問い合わせ先 雷話:03-3203-5310

Mail: paragraf@jca.apc.org



## さら/それでも「民主主義」?

#### 琿

Nakano Osamu

74年、神奈川県生。現在ニューヨーク大学博士課程(歴史学)在籍

先日(2006年 3月)ニューヨークで、ムミア・アブ=ジャマール、ハワード・ ジン、イマニュエル・ウォーラーステイン、デヴィット・ハーヴェイ、ラムゼイ ・クラーク等、アメリカを代表する知識人・法律家・活動家達が、「国際民主主義 基金」(The International Endowment for Democracy / IED) と称する新し い非営利民間団体を設立した。設立の趣旨はもちろん、その「米国民主主義基 金(The National Endowment for Democracy)」をもじった団体名からしてい わゆるアメリカ「民主主義」の偽善に対する辛らつな皮肉が効いている。つまり、 アメリカ政府や「米国民主主義基金」等の政府関連団体が「民主主義の振興」 という美名のもとに、世界中のいたるところで NATIONALな資金をばら撒いて、 それこそ「民主主義」的に成立した外国政府を転覆するための内政干渉を繰り 返しているのに対し、「国際民主主義基金」は、インターネットを介して世界 中の人々から寄付を募り、その INTERNATIONALな寄付金をアメリカ国内で活 動している革新的な民間団体(労働団体・ジャーナリズム・教育団体等)に贈 呈することを通じて、アメリカ自体における「民主主義」の確立を支援しよう というわけだ。確かに、いかさま選挙で就任した大統領を擁し、愛国者法によ って市民的「自由」を制限して、企業や富裕層を優遇する経済政策を推し進め るのみならず、石油目当ての戦争を繰り返し、地球温暖化等の環境問題すら無 視し続ける「民主主義」の「王様」にはそろそろ、自分が裸であること、つまり、 人様の家に土足で上がりこんで「民主主義の振興」とやらを喧伝するよりもむ しろ自分の家で「民主主義」を確立することこそが最も必要とされている事実 を教えてあげるべきかもしれない。

それにしても今さらながら、「民主主義」? しかもリッチな国の住人が世界 の人々に、寄付を請う? 野次馬根性の疑問はつきないけれどしかし、マジメ に運動している民間団体が資金難に喘ぐのは彼我の差を越えて世の常だし、試 みにワシントンと永田町の関係を想起すればホワイトハウスに(石油のためで won't you HELP? from the official site of I.E.D. らのウェブサイト (www.iefd.org) をご覧下さい。

はない真の?)「民主主義」を突き付けることは首相官邸に(自民党のためで はない真の?)「改革」をもたらすことにもなるやも知れず、さらに葉巻をく わえた英国首相の口を借りれば僕達は未だ、(それが最悪でも) [民主主義] 以 上にマシなものを手にしていないのかもしれない、とも思う。ちなみに「国際 民主主義基金」は、役員全員が手弁当で、寄付金は全額相応の民間団体に贈ら れるし、またあらゆる外国政府・国内政党・非合法団体とは無関係。要するに彼 らは、いかなる既存の政治勢力とも一線を画しつつ、今なお「民主主義」の価 値を共有する世界中の人々に向けて、アメリカの民主化を手助けする手段を提 供し、それからさらに、世界中における「民主主義」の促進にまでつなげるこ とを考えているのだ。

肩肘張って支援に奔走しなくても、シニカルな野次馬だってかまわない。む しろ、あまりにも生真面目な「ウンドウ」にはちょっと斜に構えてしまう人に こそ「国際民主主義基金」はピッタリだ。そもそも、「裸の王様」の親友にし て忠良なる臣下、「規制緩和」と称される経済政策が数多の虚業家を生み出し ながら、「フリーター」や「ニート」と呼ばれる非正規雇用や失業が常態化し、 富裕層と(「中流」層をも含む)貧困層との経済的格差が拡大するのみならず、 靖国問題によって近隣諸国の反発を誘い、国際社会の牽引役を期待されるには 程遠い国で、少しでもマシな「民主主義」の再構築を見通すとしたら、 雑多な大衆相互のネットを介したゆるやかな連携に賭ける以外に何があ る? 気まぐれなおひねり (寄付) がマジメな運動に勤しむ人々の資金難を救 う可能性を夢想するだけでも、ちょっとワクワクしてくるものだ。少



● 「国際民主主義基金」(The International Endowment) for Democracy) への寄付・支援の方法に関しては、こち

## **5** y**5** [03]



高原英理 ⊙ Takahara Eiri

59 年生。主に評論家。美と憧憬 の理論『少女領域』『無垢のカ』 の後、『ゴシックハート』を著 してゴスの暗黒卿となる。合言 葉は「残酷・耽美・可憐」。

ゴシックの世界は世に言う少女趣味とも深くかかわってきた。ゴシ ック・ロマンスの女王と呼ばれたアン・ラドクリフ全盛の頃、既に作 者も読者も女性が主となっていたその様相を、リアリストのジェーン・ オースティンは『ノーサンガー・アベイ』でいくらか揶揄してみせたが、 しかしそのオースティンにしても、はたから見ればやや滑稽な怪奇趣 味の少女を否定しようとしたわけではない。すると閉ざされた館に息 づく少女の意識が察知した死の香り、宿命と惨劇の予感はやがて趣味 の領域を離れ、エミリ・ブロンテによって『嵐が丘』という小説を生 むだろう。それは繊細さと聡明さゆえ常に自ら血を流し、自己の誇り 以外の因習も制度も一切認めず、外に向かってとげとげしく苛立ち続 ける少女たちの聖典となってゆく。そして今も、ある種の意識的な女 性たちが一度は立ち返る場所が烈風吹き荒ぶヒースの丘である。

地平線が薪束のように私を囲む/傾ぎ 揃わず 揺れるまま。 マッチ一本あれば 私を暖めるのに/そしてあの細かな線が/大気 を茜色にあぶると/ピンで留めた遠景もぼやけ/鈍色の空を さら に濃く染めあげるのに。/一歩踏み出すと 地平線は溶けて消えゆ くばかり/あいつぐ期待のように。/……/空が私にのしかか 私という/水平線に囲まれて立ちすくむ唯一の者に――/草が 猛り狂ったようにその先端を叩きつける。/繊細すぎれば/ともに 生きてはゆけない/闇が命を脅かすのだから。/暗く細々とした。 財布のような谷あいに今 人家の灯は/小銭のように 光る

(シルヴィア・プラス「嵐が丘」、『湖水を渡って』所収、高田宣子・小久江晴子訳)

流

側

〒

出

階

騒

シルヴィア・プラスは特にゴシックを自称した詩人ではなく、その 系譜はエミリ・ディキンソンに続くものとされるが、もうひとりのエ ミリであるブロンテの遺産をも忘れてはいなかった。いなむしろディ キンソンその人もまた手法や道具立てを怪奇恐怖に求めなかっただけ で、ブロンテにも続く、飼い馴らされないかたくなさを持っていた。

ゴシックに代表される死と恐怖と暗黒の思考は、いつしか、ここに 自己が存在することへの強い否定の意識を自覚させてゆく。既にメア リ・シェリーの『フランケンシュタイン』でそれは始まっていた。そ こから、拒絶と否定、世界の在り方への憎悪、生きていること自体へ の嫌悪といった、時に徒労とも言うべき思考が繁茂してゆくだろう。 少女たちは、その生を望まれることのない醜悪な怪物の、終わること のない呪詛と悲嘆を、意識せずともわかっていた筈だ。身を立て、何 かを勝ち取ってくることを当然の目標とした当時の男性たちとはその 置かれた場所が異なる。彼女らは「俺が世界を決めてやる」と嘯く傲 慢な意識たちに向かって、永遠に拒絶を続ける。いやもはや性別など、

思い

. の

他

票田として期待できそうだと思ったの

か

与党も含

の ラ 塚

志

Otsuka Eiji

今では問題ではない、マリリン・マンソンがジ ョージ・ブッシュに代表されるネオコンを嫌悪 し罵倒し、軽蔑と抵抗の限りを示すように、何 かに目覚めた意識たちは、既得権を当然として 正統を僭称する優位者の不当な支配を全身全需 で呪い続けるだろう。そして彼女ら彼らの立つ 荒野には、ときおり、シルヴィアの詩のような、 鋭く脆い硝子の花が咲いているだろう。 🕭

って、



『湖水を渡って』 思潮社

らハッ えないことが正しい選択ではあるのだろう。 自分らで何もしないわりにはあらゆる「社民的なもの」=「サヨ と言った記憶があるが、 想やことばなどこの国からもはや出てこない。 階層 がだっ んりが 一代がことごとく のくせに 叩くのには必死だから、 描くべきで、 .作中に半端に描かれているアルバイトシーンをこそもっと徹底 [が舵取りするのかといえばそうではない。階層化は規定事実であ 1判を人々が一斉に語り出して、 ・ブドア騒動をきっかけにとってつけたように新自由主義経済 各政党は ようするに の それを是正したり、ましてや「階級」を転覆されるような思 ا ا あらゆることばの基調に今やある。 て 毎号のように組んでいる ガス抜きをしつつ、 の 維 |疑問を封じる政治的キャンペーン 「勝ち組」 一持の動きだと冷静に考えた方がい -な生き方だよ、という特集記事は実はどう考えたって 「上流」 「ニート」「フリーター」たちに妙に気を遣い始 階層化 その意味でプロレタリア文学をやったらどうなのさ 右 に来られちゃ の堀江が全てを失うシーンを見せることで にいったのも考えてみれば、 転向した に対して疑問を持ってはならな 物書きの処世としては、 しかし、 「下級」 それでは社民主義的な方向にこの 困るんだよ、 左左 その根底にあるのは も転向しなかった は っであ 物書き業界で、 下級」 だから『SPA!』 という ぼくは昔、 って、 そんなことは で見方を変えた 親 上流 ライブドア が中卒の いと 「下流」 ぼくの 佐藤友哉 左 いう主 め

ク

Ь

あ

考

社長や大学教授や医者の息子だもんなあ、 分さえある

:州引き揚げ者という

「下流

出身はぼくぐらいで、

あとは大半が

同 元

と考えると納得がいく部

が、

#### 文 学 の

3



構用創 ② Yokota Hajime

70年生。作家。主著『裸のカ フェ』。Parties vol.3@ 西麻布 Bullet's 2006.04.08 SAT 8PM OPEN 2000ven (1drink) メイ クさんがその場でアイメイクを してくれるよ!

創 H 構

「婆ァさんじゃなかったっけねえ、おじいさんだったっけねえ」「…」 オタカは女性ではなく男性だったのである。この村で生まれて十五 歳のとき東京へ奉公に行った。十九歳のとき、役者になりたくてその 道に入って女形になった。六十五歳のとき、この村へ夫婦で帰ってき たのである。「…」ひと目前に死んだ妹というのはオタカの妻であった。 女形だったオタカが髪をオカッパ風の切髪にしていたのでオタカも女 性だと思われて、夫婦だが姉妹のように扱われてしまったのだった。 オタカとしても女の仕ぐさに慣れているので女性の扱いにしてもらっ たほうが気が軽かった。「婆ァさん」「婆ァさん」と呼ばれて、「はい、 はい」と婆ァさんらしく受けていたのだった。

(深沢七郎『女形])

いつのころからか、わたしのなかに根づいていた思想があって、すべて のことは後天的である、先天的ではない、遺伝子や家系、どうすることも できないものとしての身体性に理由を探すのを拒否する姿勢があって、生 まれたときからゲイであるゲイのひとや女の子である女の子なんでいない、 "である" は男でじゅうぶん、女の子は女の子になるのだ、ゲイになる のだと叫ぶように祈っています。オタカさんはたぶん高雄さんや孝男さん、 それとも隆夫さん? 貴雄さん? だったんじゃないかな、故郷を離れて 女形という女性を演じる歌舞伎役者になる以前は。「女 | の「形 | と書い "おやま"と読むんだけどね、彼女は女形になることで男であること から、その "である" から、先天的な知 (=所与) から自由になれた。 姉妹みたいな夫婦? 女の仕ぐさに慣れている? そのほうが気が軽かっ

た? ステキだと思う。オタカさんは本当に "女の子" だと思う。だか らいまからでも? 生まれてからでも遅くないし、意志や努力がすべてな のだと言いたいのでもなくて、すべては日々の暮らしのなかに、生活のな かにあると思うし、なにかに出会うそのたび、今日着る服を決めるみたい に自己を選び直しているのがわたしたち "女の子" であると思うから。 美容整形並に化粧をしよう。肌荒れを隠すためでも、少しでも彫りを深く 見せるためではなくて、メイクすることそれ自体を楽しむためにメイクを しよう。**白鳳堂**のメイク・ブラシが、特にチークやパウダー用の太い筆が おすすめ。値段はちょっと高めだけど、柔らかくて、触っているだけでも 楽しいから、メイクが手段のみならず目的になる? Edie Sedgwick み たいな、いかにも Andy Warhol の六〇年代、ニューヨークにある彼のア トリエに遊びにきていた女の子たち "Factory girl" って感じの、付け まつげの生え際が上も下もまっ黒なアイメイクもいいよね。いつもはしな いそんなメイクをいつもするようになれたら、いつものことから順にいつ もはしないことに、ハプニングになる? 突然「遊びに行っていい?」と 友だちに言われてもあわててメイクする必要はない? だってこれが、メ

イクした顔が女の子の素顔だから。人間離れした女 の子になるために美容院へ行こう。何度やってもま た女の子になりたい、生まれ変わりたい、そう思え た瞬間、その一度のなかで、千回? 一万回? えきれないほどあなたのなかであなたが女の子"に なる"ために。Partyをしよう。🕭



『深沢七郎集 第五巻』 筑摩書房

どさる

ラッキー・ヤングメン」を『野生時代』に連載中。

永山則夫、永田洋子、三島由紀夫らをモデルとした 58年生。まんが原作者。 大塚英志 ⓒ Otsuka Eij 代表作に「多重人格探偵サイコ」。

思想」 なる。 わり」と言って新自由主義の露呈をやりすごすのも実は『SPA! るべきだが、それが書かれないのはやはり「文学」 走するのも当然で、 という抑止を失った結果としてある。 実に身も蓋もなく露呈している、 済とは近代に埋め込まれた社会ダーウィニズムが唯一の規範として としてある。 ずっと注意を喚起してきたが、 である。 近代文学の がどうにも出にくくなっている現在が何を意味するか、 的に 想 。碎 下流でいいじゃない特集とやってることは同じであるってことに 立ち位置の違いだが、 れている。 [主義経済に対抗するドイツ型の政策科学が基調にあったことは た社会ダーウィニズムが、 新しいものではなく いことは説明 れは実は 番のポイントである。 かし、 や「サボタージュ」 例えば北村透谷がかつて まあ、 が機能しなくなったがゆえに剥き出しになったと考えるべき の多くは何らかの形で社会ダーウィニズムに対する対抗倫理 せんと自由民権運動に身を投じたように、 「社民的」なのである。 ぼくは近代的言説の 散々、 である。 終焉という 文芸誌は社会ダーウィニズム的に負けりゃいいんだけ 階級を転覆するか是正ぐらいにとどめるかはそれぞれ 柳田民俗学の前提としてある農政学もイギリス流 しない 文学回りで勿体ぶって言われてきた近代思想なり この だから「プロレタリア文学」のひとつも書 「近代」 「サボ けど現在の とにかく「近代文学」や「近代思想」 のせいでしかない。 「階層化」に対してこれに対抗することば 対抗することばがなければ それに抗らことば=「近代文学」「近代 タージ 「欧州に流行する優勝劣敗の新哲派を 「OS」としての社会進化論につ どうせ伝わっていないと思う。 もら一回言らが現在の新自由主義経 の段階で社会認識の基調に埋め込ま つまり「近代」が「文学」 思想 「勝ち組 ュ そこが の結果だということだ。 」「負け 結局、 「現在」を考える上で 「近代文学」「近代 の「保身」や「処 組 「近代文学の終 「近代」 といったら、 の思想は別 が は いて か の自 L 知 か

斎藤美奈子 ⊙ Saito Minako

56年生。文芸評論家。94年、『妊娠小説』で評論活動をはじめる。他の著書に 『文章読本さん江|『文壇アイドル論|『文学的商品学』など。

三島由紀夫『青の時代』の主人公はホリエモンである。いや、正確には、ライブドア事件によく似ていると いわれる光クラブ事件の主役(主犯)をモデルにした小説である。

新潮文庫はすかさず帯をかけかえていた。

〈ライブドア・ショックでいま、話題沸騰!!〉〈よく似た男がいた!〉

新潮文庫はスキャンダル好きな「週刊新潮」と同じ会社から出ていたんだっけなあと、改めて思うことしきり。

光クラブ事件とは、戦後まもないころに「アプレゲール犯罪」と騒がれた金融事件である。

1948年9月、東大法学部の学生・山崎晃嗣が、東京都中野区に高金利のヤミ金融「光クラブ」を設立。会社 は急成長をとげ、わずか4か月で銀座に進出、山崎も一躍時代の寵児となるが、翌年、物価統制法違反と銀行 法違反の容疑で逮捕される。取り調べ官に法律論議をふっかけ、処分保留で釈放されるも、その後、事業は破綻。 49年11月、山崎は青酸カリで自殺した。

光クラブ事件とライブドア事件が似ている(といわれる)のは、事件の性質もさることながら、違法スレス レの線をいく、「金がすべて」みたいな社長の傲慢な態度である。山崎語録と堀江語録には、たしかに似たとこ ろがないとはいえない。

がしかし、それはそれ、これはこれ。『青の時代』、あんまりライブドアの感じはしないのだ。作中の主人公 の名前は川崎誠、彼が起こした会社の名前は太陽カンパニイ。川崎は東大に在学中で、将来は東大教授になる ことを片方では狙いつつ、高利貸しの会社で成功する。

が、この小説のキモは、事件そのものではなく、川崎誠という田舎者の青年の人格形成の過程と、その復讐 心にある。千葉の名家から上京し、合理主義者の分析家であろうと努めてきた誠は、詐欺事件にひっかかって、 大枚を失うのだ。

〈ああ、と叫ぶ。ああ、と反響する。誠はようやく上着のポケットに手を入れて歩き出した。ガレージを出た。 顔は怒りのために蒼ざめている。/『十万円はまだしも惜しくない。しかしこの僕が人に騙されたとは!』〉

なーんか、このへん、別の事件を思い出しちゃう。偽のメールをつかまされ、予算委員会で舌鋒鋭く与党の 幹事長を追究したまではよかったが、勇み足で形勢逆転、すっかりシュンとなってしまった野党の若手政治家 ……とかね。

自信家の青年が暴走して挫折する。その舞台が六本木ヒルズだったり国会だったりするから大騒ぎになるだ けで、似たような事態は世の中に無数に存在する。そして小説家っていうものは、そうした事態が無類に好き だったりするのである。

三島由紀夫にその手を探すとしたら、『青の時代』より強烈なのは、「豊饒の海」第二部『奔馬』だろう。こ れは右翼思想にかぶれた若者が「昭和の神風連」を名乗り、腐敗した社会に鉄槌を下すべく仲間を募って決起 する。そんな物語なのだけれども、おもしろいのは、彼らが決起して逮捕されるまでの間に、主人公の飯沼勲 が権力にすりよったり、憎悪を覚えたりする、その過程である。

たとえば、勲に引き合わされたさる宮家出身の大物軍人はいう。

〈「こういう学生が出て来たと思うと、日本の将来にもいささかの希望が持てる。軍隊では自発的な声に接する ことがなかなかできない。いい人をつれて来てくれた。〉

そして、彼を宮に引き合わせた中尉はいう。

〈「殿下は貴様が大へんお気に入られたらしい。何かのときはきっと殿下が力になって下さると思うが、御身分 を考えて、決してこちらから殿下に何かをお願いするような態度を示してはならん。それにしても果報な奴だ。 小さな粗相などは気にするなより

あれあれ、昨年の総選挙の頃、どこかの党でこれと似たことがあったよなあ。

あるいは、さる財界の大物は堂々と口にする。

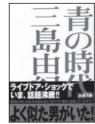
〈「失業者が多いということは、もちろん好ましいことではないが、直ちに不健全財政を意味するものではない。 むしろその反対であることは常識です。民の竈は賑わいにけり、というばかりが日本の安泰につながるのでは

おおっと、最近もこれとよく似た発言をした首相がいたなあ。

『奔馬』は自ら「刺客」となって財界の古株を一掃すべく暗殺をしかけた青年が、自 爆する物語である。主人公は、イケイケだった頃によくしてくれた年長者全員に、結 局は裏切られるのだ。新潮文庫はこっちにも新しい帯をかけたらどうだろう。

〈よく似た男がいた!〉

光クラブとライブドアの符合は「歴史は60年周期で繰り返す」という柄谷行人氏 の説が、今度も証明されたことくらいだろう。光クラブ事件、1948 ~ 49年。ライブ ドア事件、2005 ~ 06 年。そういえば「豊饒の海」も転生の物語だったっけ。 🖗



『青の時代』新潮文庫

#### 次号、「WB」第四号は 五月下旬発行予定です。

#### Creative Writing School

今期 別、ストーリーテローを初の本格的ライ WS創作学校は、 つくりたい人から文芸誌 幅広 の期待にこたえます 文芸誌の新人賞応募グ講座を新設、物語--ングスクールです。



#### 06年度受講生募集中!!

▶物語創作

「物語る力」を鍛える ストリーテラー入門講座



講師:大塚英志

神戸芸術工科大学、映画専門大学 院大学、東京藝術大学などで、創作理論としての物語論を担当。まんが原作者。評論家。

#### M小説技術コ-

(全10講義+添削10回+サマーセミナー) 短篇の完成を目指す技術講義「創作 ゼミ」+小説の構造分析、評論作法な どを学ぶ「池田ゼミ」+通信添削部「創 作ベーシックコース」受講

文章修行、コミュニケーションの場とし ても人気のコース

#### ☑ 小説技術聴講コース (全10講義)

「創作ゼミ」+「池田ゼミ」

講師:前田久美

CWS創作学校専任講師。有名塾講師としても活躍。

講師:池田雄一

文芸評論家。「原形式に抗して」で群像新人賞受賞。

#### 通信添削部 入校随時

創作ベーシックコース 創作コース

エクストラコース

#### ネットスクール部 入校随時

創作入門コース

☑ 創作ベーシックコース

\*ホームページ上で通信添削部とネットスクール部のデモ画面をご覧いただけます

お問い合わせ・資料請求 -

#### CWS創作学校事務局

東京都千代田区三番町30-8 第二生光ビル301 株式会社アイ・メット内 〒102-0075

TEL: 03-3262-0561 FAX: 03-3262-0584 e-mail: info@cwsnet.co.ip

http://www.cwsnet.co.jp



### 青山南 ② Aovama Minami 49 年生。とりあえず翻訳家、ときたまエッセイスト。翻訳に『血 の雨』(コラゲッサン・ボイル著)など。著書に『南の話』など

「ロボット」という言葉を発明した作家として知られるチェコのカレル・ チャペックの作品は、いまではとてもたくさんの数が翻訳されていて、ニ ッポンでもどんどんファンが増えている。本国のチェコでの人気はたいへ んなもので、たとえばロングセラーの『ダーシェンカ』などとんでもなくて、 「毎年十万部くらい出ています。毎年ですよ! 十万部というと、チェコ の人口は約一千万人ですから、人口一億の日本に直すと、毎年その十倍ず つ売れている勘定になります。日本でいうと、百万部は毎年売れていると いうことですし

と、「ポケットのなかのチャペック」なる楽しい名著も書いている言語 学者の千野栄一がうれしそうに報告している。『ユリイカ』の一九九五年 十一月号での発言だから、いまでは多少減速したかもしれないが、人気の 規模を知る目安にはなる。もとから人気があったチャペックだが、 「一九八九年の十一月にいわゆるビロード革命というのが起こって、社会 主義の軛が解かれ」てからは「本国での再評価」もさらに高まった、と千 野は語っている。どっさり増えたニッポンの翻訳にも、そんな再評価の動 きのなかから再登場した作品が多くふくまれているが、なにより注目すべ きは、それらがぜんぶチェコ語から翻訳されていることだろう。千野は、「日 本でチェコ語が出来る世代がやっと成熟してきた」ことが翻訳の隆盛を支 えている、とも指摘している。

チャペックのチェコ語はなかなかむずかしいらしい。でも、千野による と、「日本の文化人、なかでも独語、仏語、英語等を解せるような人たちは、 昔から外国語でチャペックを読んでいて、『チャペックは是非翻訳しなけ れば」と言っていたんです」。そのなかには実践したひとも何人かいて、 たとえば、豪胆な文化人でもあった英文学者の中野好夫は、唯一の童話集 を一九四一年に翻訳し、一九五二年にはそれを手直しして『長い長いお医 者さんの話』として出している。その本は岩波少年文庫の一冊としてチャ ペックのファンを多く産み出すロングセラーになった。

ところが、ビロード革命も間近の一九八六年、中野はまた手直しして新

版を出した。あとがきによれば、「チェコ語ができませんから」チェコ語 ができる井出弘子に手伝ってもらって「もとのチェコ語の本とくらべて、 多少手を加えました」とのことだが、じっさいは「多少」どころか、大々 的な手直しだった。いま流通している岩波少年文庫のは新版で、旧版は古 本屋か図書館でしか見つけられないが、ふたつの本はまったく別なものだ といっても過言ではない。

なにしろ、舞台も登場人物もちがうのだ。旧版では、舞台は主にロンド ンで、登場する面々はキッチンとかライトフットとかイギリスっぽい名前 の連中である。それが新版では、舞台は主にプラハになり、登場する面々 もホラスとかハラブルトとかチェコっぽい名前の輩になっている。流れて いる川も、旧版ではテムズ川、新版ではヴルタヴァ川である。要するに、 旧版はイギリスのお話、新版はチェコのお話なのだ。

なんでそんなことになるのか。

宣伝の成果であり、

絶えず問い直し考え続けたい(六十数年前には戦争を煽っていた中

中

という、

形のない曖昧な集団的共通認識が、

いかにマスメディアを介した

時に宣伝そのものですらあるの

か

-このことを、

やはり私

央

軍国化しつつある、

と感じざるを得ない昨今、

その、

、〈時代〉

Þ

〈世間〉

Þ

世

大新聞社、 凡庸に、

大出版社は、

今、

自社の死活にかかわるほどの利害が絡む時にだけ

を持ち出すに過ぎないが、

日頃から言論や表現

是非とも第

二次大戦中の御用記事を、

新

聞 0

理由は簡単で、「もとのチェコ語の本とくらべ」た結果である。中野が 翻訳の底本としたのは英訳だが、そこではすべてがイギリスの話に変えら れていたということだ。それを、「もとのチェコ語の本」にしたがってチェ コの話にもどしたのである。

大英帝国から見れば、小国チェコのお話のアイデンティティなどどうで もいいということか。なかなか凄まじいことを英訳者はやっていたのがわ かる。

アマゾン UK で調べてみたら、チャペックの童話らしき本の翻訳は 一九三二年に出ている。原著が出た翌年だ。中野がつかった英訳はきっと これだ。チャペックは大のイギリスびいきだったが、はて、この英訳をど う考えていたか。

さらに調べていくと、別な訳者のものが一九九〇年つまり、ビロード革 命の翌年に出ているのがわかった。そんな時期に出した新訳なら、たぶん、 プラハはプラハとして訳されているだろうとはおもうけれど、どうだろう。 未確認である。🖗

女性ファンらが海を越えて半島へと渡った、 危険な最前線部隊への配属を自ら志願した、 る人気俳優が、 ある。 して ここ二、三年、 ろ洗脳映像集〉と化しており、 こんなことを書くのも、 いた その一例を次に挙げる ――このような内容を、 昨年暮頃、 日本国内で謎の盛り上 母国 今日 [の徴兵制に従い軍に入隊した、 の地上波民営テレ 最早そちら側に何の期待もかけられないからで テレビの短 一がりが持続している韓国製ドラマのとあ 彼女らは泣きながらその俳優を激 その様子を いニュース番組中で、 ビ放送の中身が、 一目見ようと、 しかも彼 見事に 〈擬似報道〉

のだ、この国の印刷・出版文化にまだ本当の自由が辛うじてでも残されているの

へおも

なら連日、 自

週刊誌なら週ごとに、

わずかな分量ずつでも転載していただきたいも

|由について考える気があるのなら :々しく「言論・表現の自由」

ならば)。

印象とともに刷り込むかである、 は まさか今更、 いかに日本の惰性的視聴者の無意識に、 隣国の人気俳優が 流行の旬を過ぎた韓国ドラマの宣伝である筈はないその映像の狙 積極的に兵役を担うことで国家に奉仕するIM と私には思われた。 〈愛国的〉 且つ 標的は、 〈立派である〉 テレビの前でぼ A G E とい

感じたのだった。 の声と映像がまさに

announce して

るところを私は目撃し、

おぞましいもの

日本から は

より

時代が極端に右傾化している、 世間が、 世の中が、 嘘臭く偽物の国粋主義を讃

#### 牛

涼

能

るというわけでもない。

田

#### 死 $\mathcal{O}$

想



可能涼介 ⊙ Kanou Ryousuke 69 年生。劇詩人・批評家。『反論の 熱帯雨林 | 他。自称「21世紀の大 小説」を、ネット上で連載中。

http://www.carol-kari.ip/

いまだに愛読者が多いようだが、梶井基次郎に『檸檬』という作品がある。 主人公が八百屋で買った「檸檬」を、本屋の丸善に、「爆弾」に見立てて置 き去る。というだけの、ごく短い小説だ。その行為によって「世界」が変 わるのではなく、世界の「見方」が少しだけ変わるわけである。何が起こ

これもまた好きな作品として挙げられることが多いものだが、萩原朔太 郎に『猫町』という短編小説がある。林の中で路に迷った主人公は、西欧 風の洗練された町に出くわす。そこが急に、不安に歪んだ、異様な町に見 えてくる。建物の輪郭が歪んで見えてきたりする。そして、数知れぬ猫の 集団が現れて、町を埋め尽くす。ごく短い時間に起こった幻視であったの だが、よく知っている町に、「いつもと違う方角から」迷い込んだことによ って、起こったのだった。

5年前に、四国のある美術館で、異貌の作品群を見たことがある。ドレ スや剣や戦士などが、オブジェとして展示されていた。近寄ってみて気づ いたのだが、何か無数の「もの」のかたまりで、それらは出来ているのだ った。よく見るとそれは「昆虫」だった(甲虫だったと思う)。『檸檬』や『猫 町』を読んで得た以上の眩暈が、その時の私に起こった。

何というアーティストだろう。それはヤン・ファーブルという人で、『昆 虫記」のファーブルの実の孫なのだった。それを知るとさらに、私の世界 の見方は変わった。勿論その昆虫は、死んだものだったのだが、生きてい る虫でそれらの作品が出来ているのを見たかのような感触を、ある本を読 んでいて、持ったことがある。

西村望という作家がいる。優れた犯罪小説の書き手で、私は特にその短 編を好むのだが、ある時彼のエッセイを読んでいたら、こんなことが書い てあった。私 (西村) の小説の登場人物のモデルは全て動物 (主に鳥) で ある、と。それを読んでから彼の作品を読み返すと、作中人物が全て鳥人 間であるように思え、たまたま私は電車の中でそれを読んでいたのだが、

て電波に乗りはしなかった。

「爆笑問題

のススメ」

なる雑話番組収

公録時

の

芥川

賞作家の発言も、

車中にいる人々全員が人の服を着た鳥(勿論生きている!)に見えてしま ったのだった。「火の鳥」がいたようにすら思えたのは、そこが奈良だった からだろう。

世界の見方が変わるというのは、芸術作品に触れることによって得られ る、グロテスクでありながらもスリリングな体験である。それによって、 世界が直ちに変わるわけではない。その無力感を打ち消すために、いろん な作家やアーティストや思想家が、「実践」に手を出すのだろう。

私がパフォーマンスらしきことをやっていると言うと、裸で街に立つとか、歩 道橋からロープで吊り下がるとか、何か身体をさらした派手な行為をしていると 思われるようだ。が、実際は、梶井作品のように地味なことを、ごくさりげなく 行っているだけである。私のささやかなアクションによって、観た人の「脳の中」 に変化が起こり、世界への見方が変わり、その作品におけるような幻視が一瞬 起こることを目指しているのである。

世界の見方が変わることと、世界を「変える」こととの間には、かなり の距離があるのだが、肥大したヒトの脳は、その距離をごく短いと思い込む。

なみに、

そのニュース番組では、

同じ韓国社会で大きな問題となってもいる

良

(B)

切報じられることはなか

一人の役

心的兵役拒否」の無視できない拡がりについては、

プロパガンダに利用されているなどとは想像すらしていなかったことだろう。

日本の軍国化を静かに強めるための、

さざ波のような

おそらく、

自

撮影されていた当の韓国人俳優が、

らの愛国的入隊の映像が、

無惨なまでに安直な〈反射的同調〉

Þ

〈気分的うなずき〉であるが、

何よりも信

難い矛盾を孕んでいたのは、

言語や数や貨幣によって、世界がごく短い時 間で操作できると見なす。一言で言えば「思 い上がり」だが、「空想から科学へ」といっ た感じで、ヒトは突き進む。時間の感覚に狂 いが生じ、「脳の中」で、現在も過去も未来も 入り混じり、「迷い道」をくねくねと行くのが、 人間の宿命だろうか。

そういったものへの歯止めとしても、小鳥 のようにつつましやかな梶井作品などは、機 能し続けているのであろう。🕭

筈であるが

由に兵役を拒むその数が、

年間数百人にも達することの方が、

報道価値が高

記

般人が個人の信仰や倫理観を

者が軍に入隊するという当たり前の現象よりも、

本来ならば、

成人男性ならほとんど必ず徴兵される韓国に於いて、



『ヤン・ファーブル』 淡交社

は 士族等の、

ニュース風

【映像に付与された意味が誘発する、

〈感動〉や〈感心〉

未満の、

特権階級出身者ではない大多数の日本国民たち)であり、その撒き

りながら死んでいるような暇な日本の貧乏人たち

(財閥系や

うっとしている、

眠

テレビで目にすることもない。 国記念日に騒音を撒き散 と見て差し支えないのだ-H 前出の韓国人俳優が報道されたのと同じく、 我々の潜在意識に植 マスコットである、 伝力として利用され得るし、 業することを祈念しながら、 に制止されているのを見たことがありますか?」 このように、 か? |的に憲法九条改正に猛反発しているアナウンサー 本に皆無の状況下では、 の範疇から永久追放するべし。 まず、 のヒステリック 全ての有象無象のテレビタレント、 テレビが、 なぜなら、 !えつけようと企むならば、 らして走り回っている右翼の街宣車が、 へふつうのテレビ局=すべて政府&軍部とツーツー> 違和 より論を極めるなら、 彼ら全員の名前を命懸けで忘れ、 ٤ な度合いは 「北朝鮮の 軍国化に強烈に反発・抵抗する民間のテレビ局が 感なく国民を軍国化 ここまで断定すると妄想になるが、 なぜか? まるで北朝鮮 テレビ局について取り上げる際の、 本人の真意とは無関係に、 それは、 我々にはどのような戦い方がある と生放送で叫び出すアイドル ほぼ全ての芸能人は、 芸能人、 を我々は知らず、 あらゆるテレビ芸能人は、 へと誘導するヴィジ のテレビ局のようです アナウンサーらが おのれの脳内、 一度だって警察 しかし、 また、 軍事的宣 軍隊の ∄ ンを 建 ね

自

英和辞書片手に、 〈世の中〉という共通認識概念の生成現場が、 い、ということだ。 テレビによって国民を大量に洗脳できるということは、 それを変えようとするなら、 C R A S S だから、 (注・英国のバンド)の歌詞を読めと言うのだ。@ 軍国的芸能人らの顔と名前を思いっきり忘れて、 、まずは、 現実に我々の頭の中に存在して 我々自身の頭の中を変えれ 〈時代〉 Þ 〈世間〉 R

年のテーマの答えが出たように思う。ぼくは を見るとジイチャンと言う。わたしは「僕って何」という積 二人いる。 長女はスペイン語をしゃべるのだが、 わたしの顔 音楽院で先生をしている長男を訪ねたのだが、今回は次男 夫婦も連れていった。 わたしにとっては孫にあたる女の子が 正月にスペインに行った。アラゴンの古都サラゴサの高等

ジイチャンなのだ。

兄が二人、姉が二 嫁さんは末娘で、

人いる。 大晦日に

坪内逍遥 島村抱月 国木田独步

> 切ぎりぎりに提出された作品はひどいものが多い。熱を帯び の書いた青春小説(みたいなもの)を読むことになる。締 も読まないといけない。青春小説を書きながら、学生たち 創作指導の時間なので小説を読まされることになる。 卒論

いるので、関係団体との協議に出向くこともある。(…) 国 社や予備校や私立学校と れる。その使用料の交渉をするために、教材出版 語の問題集に作品が使用されるとわずかな使用料が支払わ 化庁の会議に出たりする。わたしは著作権の責任者をして た頭の中にはまだスペイン語がこだましている。 その間に文

田山花袋 of WASEDABUNGAKU 丹羽文雄 河上徽太郎 色川武大 秋山 紅野敏郎 中島国彦 三田誠広

はわたしと妻は一室をあて 締切が迫っていたのでノート 閉じこもって仕事をした がわれていたので、部屋に 動しただけだが、ここで 集合した。 同じ喧騒が移 正月は、長男の家に全員 も加わる。(…) 翌日の 宴会の中にわたしたち である。その大家族の もその子供集団の一員 くさんいる。孫二人 歳を筆頭に子供がた 員集合する。十六 嫁さんの実家に全

じしか残っていない。いまは青春小説を書いていると言うと、 のは、はるかな昔のことで、そんなこともあったなという感 況を語れと言われるのだが、わたしが空海になりきっていた はテレビ局のスタッフが自宅に訪ねてきた。 『空海』 をテレビ 著作物使用料の交渉をし、学生の下手な小説を読む。昨日 うぶでシャイな若者が悩んでいる。その悩みをかかえながら、 話し合った。そういうことの合間に青春小説を書いている。 で紹介してくれるという。それで作品を書いていた時の状 は某有名私大の学長(その学校では塾長というらしい)と わたしの仕事である。 去年の暮れに 交渉するのも

生をしているので、講義をしないといけない。(…) どれも なくなった。スペイン風邪である。しかしわたしも大学の先

青春小説の作家がなぜ時々、歴史小説を書くのかと問われ

戻るとどっと疲れが出た。喉が痛くなり、やがて咳が止まら に飛び込んできて、ジイチャンと呼びかける。(…) 東京に 空海になりきっていた。一昨年は『桓武天皇』 だった。いまは で悩んでいる。去年、『空海』を書いていた時は、わたしは 春小説を書いていた。二十歳の主人公が恋と友情のはざま

二十歳の無名の青年である。しかし突然、四歳の孫が部屋

パソコンをかかえていた。青

これは生きた化石というか、大隈講堂と並ぶ早稲田のシン して武闘訓練をしている。三十五年前の青春小説は、『新撰 と言う。確かに作品の冒頭で、学生たちがゲバ棒を振り回 説を読んでくれた学生が、先生、あれは時代小説ですね、 の若者を主人公にして小説を書く。学生たちの宿題を読ん それでは作家としては生活できない。やむなく時々、現代 った。崇神天皇は誰も知らないので、これも売れなかった。 ころでは崇神天皇まで遡った。 新しいところでは頼朝も書い ボルだから、わたしたちの代で絶やすことはできないのだ。 いなものだ。まだそんなものがあったのか、という気がするが、 ての芸術が、単にコンテンツと呼ばれる。疲れて帰宅し、『早 協会の事務局長と使用料値上げの交渉をした。『空海』から レビ局の人が帰ってから、文藝家協会へ行って、映像ソフト 青春の物語なのだ。いまの青春は、やがて歴史になる。テ 組始末記』や『大菩薩峠』みたいなものだ。すべての歴史は わたしが作家になるきったかけとなった『僕って何』 という小 でいるので、自分ならもっと上手に書けるという思いもある 天皇の青春も書いたし、持統女帝の青春も書いた。古いと 稲田文学』の締切をふと思い出した。木版刷りの草紙みた 突然お金の話になる。 ネット配信の話もする。 そこではすべ た。義経に比べて頼朝は人気がない。本がまったく売れなか たので、わたしは空海の青春を書いたのだと答えた。 桓武

# 雑誌「早稲田文学」の過去の アーカイヴから名作を抜粋した 別冊早稲田文學」刊行開始!

ナンバー刻印 (001 ~ 999) つき。四月|五日刊行・予価四二〇〇円 (税込) 私家版「別冊早稲田文學」第一巻 (函入、A5版三〇四頁)、限定九九九部販売

を浴びた林さやかの新作はじめ、期待の新鋭三名の作品を収録 で「早稲田文学」に掌篇「女三態」を発表し、ひそかな絶賛 治二五年から昭和五六年に至る一七作を精選。加えて、一九歳 を評す」、田山花袋の代表的短篇のひとつ「一兵卒」など、明 村の「破戒」をもっとも早い段階で評価した島村抱月「『破戒 理想論争」をめぐる坪内逍遙「没理想の語義を弁ず」、島崎藤 第一巻では、日本近代文学最初の論争と言われる森鷗外との「没

早稲田文学編集室一六九―〇〇五一 東京都新宿区西早稲田二―七―一〇 TEL&FAX O三—三二〇〇—七九六〇

お問い合わせ、ご注文は、

wbshop@bungaku.net 多しくはホームページ www.bungaku.net/wasebun

まで、お電話・FAX・郵便・メールにて。

三田誠広 ⓒ Mita Masahiro 48 年生。66 年、「M の世界」でデビュー。77 年、「僕って何」で芥川賞を受賞。「別冊 早稲田文學」に全文掲載のエッセイ「スペイン風邪」は、30 年近くにおよぶその問いへ の答が訪れる瞬間の、感動的な一篇。近著に「空海」「星の王子さまの恋愛論」など。

四日本日本日日日日日日日日日日 日本日本日本 長井は中ないませんね。 園堂食のちこしか 御ちょ、と続、と下もいま。 いいっますうるどすちゃのあるし ガネス・競シール んどすが、、こいうれや、ばめてするかす カー、個なんでもうなるうなし、まとし しんサリー、 國企長以外はなれる明っぱは 方こしのでっかんに乗るの、語せん この前は街も安泰ですね、 か、会長 B ... . . . . . . . . . . . . . 一看大意以上行下子及 佐ちんな影明

かわせないでする電線との角板との、

国本前声和くはな 、 だけど

くっがし相当遊くないとじゅなしです

田上で 日田

@ X .

5

南南草於傳以"图生 五下 五下

新田田田 研報 100.

食養 一所教

國元 ? 会長 ? 何如

しゅたいどすれる。

五だな縁おわ、ではいのに……

でも続ける

なこうしい ことなかとしにんだる。 ③

98 .. ..

· 國人の無比是五

人でしたからかのいか、これるう

、よいい聞こよまいた者、食養はハイカラな

前いてき山水東の北田 古具本職中以!

八四日日明五三十二

つけを有用さらましたが、

な中のはしかなら 11日日の日本日本

葉も、前を世かてしいっないでして重要長

g,

しょうかないどしょもういう好からなれたね

四へりくつす。 てんじゃないお苦いる

りちょ、方新しゃだんなよ

(お題) 今日のエチュードのお題なんで りかけた瞬間に電線に引っかかるあれ のだが、それにつけても毎年いつもみ すけど、「例年通り祭りを今年もやる 設定でお願いします。**(………上田誠** 会話をしている町内会の連中、という がどうも萎えるんだよなあ」みたいな こしをかつぐときに、テンションが上が

2 6 0 0 0 0 0 0 1 2 4 面の電機が切れたらいうなまんですかれるう 中本社会のよう一日日十十二日日本北十日日十 今の今日下中の からで、南部東京で とはませり なる ことのは : 中二 とれ、 (日の 計二 し 頑丈 いやいやみこと頑丈ですより回じまれるも (1)

ことのもだっただろかかいないもってはるのではなるのできるたらいいいませいまか のなけらしての一番神様のもでも、日ます。」はいなかるなると のかしいかけるいか、ころ映像ですまねるで まかったの、一日本中のは、からいのはいかまか、おことの様をし 了你的人不能不不知過一日中女日本十世九十日日日 からかは、食のは、中にこれのはなるののの味をかったないます まっというであから、何らしなの母をとうまっしゃいでもは後の何と 中、別り春見みとりままおうせいひとう

風の ちゃかすれずいかんのはあかたいしたあれいです! あらこ(なすでなむ) のかはこのかいかしていいい かし、う、例はお子の一個はお子の一日本日の アイテ中出ましたよ 一回ですが、なしも、たいかくずにしま こと一日本一でもののちゃのおおいまでいたころうち 海の子にはをするか

たっていまっていかったかし 一日日本 アモラの ラルキリ いい ますからかのかの 出サアンカルの上かったか むちゃん 图书 去於 我有了人次上次不由对象なる日本日 西村がなぐる) 日東海、川田

and of the property of the state of the stat

ナナの あれていか

からいからい (やはよるなないなの)にかける のの

「一日本日本」」「日本日日日十二日十二日本日本十日日の

麗不明 あとり ゆっまこ

るの もとうなのアイデーのはっかり 裏でするめい 霧水丁百万才。中外天正江石田山人か小市 外天下方行 ないてんですまったとはないのとき 丁音石班之女人了好去配大在 井 不 的 写 馬 引 智様中は日本の中になるいちのかでいまかがあるで 園田 あいあいり、「命物」大 (E) .... (2.0)

(

No けず、風的シャルナルナルナカモラをが何いた何何の丁変 このはいかできなりの事本のくとすらどのいけるのと 門のおりのはののないとかいかのことの (日のなけいない ないのないのな みなさら、本のくんきかつぎましょうより 園されせーリ! 小のは、かれに入りしてはなりはであった。 大丁十二十分のでは、 本有くれなら 電線をかるかけるしれるとうであり よっちゃかがけてい、国の大の本立の前と後りにかけてど、かい (E) # | an

(40)

あんいな をいれる

おことのカンは 種でますし、(年後) レターテル園社で 園はありる おは魔り上かりもうなするのでの 本をしん 中、おことのよの人かのおかあ祭中務を博しますまわ 三五八年回 強い十僕かいまりた五月が、は今書下きっ 古名したい本なら後、からしの土東りますは上南のはこ

ころうとなったできるから、からないのかかって 園 おしく つきられる

では 上間のおかかりおしましたといるのあるけでの数はの

72 年生。作家。「読み終えて」でリトルモア・ストリートノベル大賞受賞。「アクロバット前夜」、「あっぷあっぷ」他

## )京風対談

ワッショイと電線 「ゲスト」ヨーロッパ企画(劇団)

1 - 4 C + 5 S - 4 C F - 9

御 ソーセル

諏訪★ギャル神輿はねえ、結構すんなり通れるんだよ。 / 石田★あー、ちょっと背が低いから。 / 酒井★当たんない すね、電線に。/中川大あと、男のはやっぱ威勢がいいから。/石田大あー。/中川大勢いがもう、ギャル神輿と全然 違うから。/石田☆ついついボルテージ上がって、ガーっと持ち上げちゃうから。/諏訪★で、電線に当たる、みたい 皆★うーん……。/本多★あれねえ、いちいち勢い止まっちゃいますよねえ。/諏訪★あれストレスなんだな ′酒井★いっぺん停電したことありましたからねえ。/皆★あー。/本多★ショートしてな。/中川★あれ危な かったー。/諏訪大落雷かと思ったもん。/皆大(笑って)うんうん。/中川大そしたら、神輿のてっぺんの鳳凰が、電 線に触ってたっていう。/ 諏訪☆シンボルが。/ 酒井☆あれ金属ですからねえ。/ / 石田☆っていうか、大体この町 電線多いでしょう。/諏訪★そう! 多いんだよー。/石田★空が切り刻まれてるでしょう。/中川★電線多いし、あ と低いわな。/ 酒井太あー電線が。/ 中川大下町だからしょうがないけどさあ。軒並み低いからねえ。/ 諏訪大祭り と、町のデザインが合ってないんだよな。/酒井太祭りの仕様になってないんですよね、町の作りが。/石田太都市 計画からしておかしいからね。/ / 本多☆ちょっと、交句言ってやりますか。行政に。 / 酒井☆電線の高さ上げてく /本多★とうとう。/石田★いやあ、今からじゃ間に合わないでしょう。//中川★これねえ、だけど分か った。/酒井☆何ですか?/中川☆これはねえ、もう、これしかない。/石田☆ああだけど僕も出ましたよ。/本多☆ え、何ですか?/石田×これ多分、中川さんのよりいいアイデアですから。/中川×いやいや、何だお前。/石田×あ なたの、そんな大したアレじゃないでしょう。(キレて)何だよ! / 中川★お前、何だお前。 / 石田★おらぁ!(つかむ) / 中川★お前、馬鹿、そこは馬鹿!/石田★ふざけろ!//(喧嘩になる。皆、止める。)//諏訪★火事と喧嘩は江戸の華 だぁ!/酒井★やめてくださいよ!(何とか喧嘩を収める)/中川★こいつがおかしいんだろう。/石田太いやいやこ の人が、/中川大なんだよ!(また揉める)/酒井★(制して)だから!(諏訪に)あなたなんでちょっと炊きつけたんで すか。/本多★(中川に)まあまあ、とりあえずねえ、聞いてみましょうよ。/中川★おう、なんだよ。/石田★だから、神 興の上に、酒井君がいて、電線に当たりそうになったらさばいていくと。これどうですか?/皆★あー。/本多★を れねえ、いいですよねえ。/酒井★はあ?/諏訪★こうなんか、お祭り感もさらに出るし。/本多★今もねえ、ケンカ をうまく裁いたように。/皆★あー。/中川★あの手つきでね。/ 酒井★いやいや。はあ? なんで僕が、意味わか んないじゃないですか。∕諏訪★電線とか看板とか、サーかわしてね。/中川★人気出るよー。∕本多★ギャル神典 のギャルたちも、「キャー!」/諏訪☆あとで神輿かつがれ放題。/中川☆「ワッショイ、ワッショイ」。/本多☆夜の神 輿、かつがれ放題。/酒井★下ネタじゃないですか。嫌ですよ。下手したら死ぬじゃないですか。/石田★いやまあ まあ、酒井くんが嫌なら、僕やってもいいですけどねえ。/皆★あー。/中川★いや、だったら俺が乗るよ。とれは。ノ 本多★いやいや、僕やりますよ。/諏訪★俺やりたいやりたい。//(皆、われもわれもという感じになる。)//酒井 じゃあまあ、僕も……。/皆★じゃあどうぞ。/酒井★いやいや。ダチョウ倶楽部じゃないですか。/本 多★今ねえ、やりたいってねえ。/酒井★そんな、バラエティのノリで決まんないでしょう。祭りの一番大事なとこ でしょう?/石田大まあ……。/諏訪大中川さん、さっき言いかけてたの、あれなんだったんですか?/中川大いや まあまあ……。/本多☆なんか、思いついたってねえ。/中川★いやまあ、若干テンション低めに担いだらいいんじ ゃないか、っていう。とういうつまんない意見だから。/石田★それつまんないでしょう。/中川★(カチンと来て)何 だよ。/石田×はあ?/中川×何だよ!(また喧嘩が始まる)/酒井×(制して)だから!/諏訪×(ドサクサで)江戸の 華だぁー!/酒井★なんで炊きつけるんですか!//(揉める感じで、フェードアウト)

#### 筆 を 之 7

対談で、笑ってばかりで、結局ひとつの発言もしなかった人物がいる としたら、それが今回の私だ。4名ずつ2班に分かれて、同一のお題 のもとに筆談する。回収された原稿をお題の提出者、上田氏自ら添削・ 再構成した完成稿 (活字版) を読んでさらに大笑いする、そんな人物 がいたとしたら、それも私だ。私は一度、彼らの稽古を見学したこと がある。お題をもとに、役者たちは、原始人としてふたつのグループ に分かれ、獲物や火の取り扱いをめぐって即興的な対話による衝突を 繰り返す、そこに絶妙な笑いが発火する。本当に可笑しく、台本の通 りに演じているのかと思っていた(しかし、完成された作品『囲む フォーメーション』にそんな場面は一瞬も現れなかった)。今回の筆談 稽古の文字バージョンといえる。読み比べると、 決姿勢の見えるところが、ふたつのグループどうしが対話しているみ たいに思わせるし、上田氏による再構成を読めばさらに、役者対演出 家という大きな構図も浮かび上がるだろう。即座に反応する役者たち の運動神経と、演出家による運動の軌跡の解析。それは、今ここで、 思いつくだけやり、そして、今ここでは思いつかぬことを見逃さぬ、ヨー ロッパ企画という作者の姿勢そのものであるはずだ。



(写真右より) 酒井善史 永野宗典 諏訪雅 松田暢子

#### 劇団ヨーロッパ企画

98年の結成以降、京都に拠点を置きつつ、東京・関西を はじめ全国で活動中。第 20 回公演「Windows5000」が、 4月2日まで京都、東京、大阪、名古屋の順に上演予定。 詳細は劇団 H P http://www.europe-kikaku.com/まで

三二年間中の知をある祖で今の子間がは、 章ったいだけしゃないですれ、 おか、在門五三からが、こいいかといかりか 高さらかにハガヤの世内 上をなりたい だけい であれしいどしょう。 @ , 16. " 2 ... .. 4" . L. 2 .. ( ) 7 H @ + # + 0 V - 9 \*\* 1

1. 1. 日本の日の日の日の日で (日で 日で 日で 日本の日本の --

3 4

Company

[重松] 堀江さんが訳を手がける作品にも、もちろん疵があると思うんだけど、そ れもやっぱり肯定の意志とともに翻訳するの?

[堀工] プロの翻訳家だったら疵があっても引き受けると思うんです。 ひとの繋が りや生活を確保しないと、良いものも出せなくなっちゃうから。それがプロで すよね。でもぼくは翻訳者であって、プロの翻訳家ではないから、そこも 6: 4 ですね。 幸いなことに、6 割以上肯定できるのものしか訳してないんです。 **[重松] 逆に言えば、4までは受け入れるん**だ。

[堀江] 7割ぐらいだといいんですけどね。 [重松] さっきの紹介のときも言いかけたんだけど、ときどき思うのは、「自分の好 きなものしか紹介しない」姿勢って、「あんたの「好き」ってそんなにエライ のかよ」って。

[重松] いっけん愛好家的なアマチュアリズムに見えるんだけど、じつは自分の 価値判断を疑ってないわけでしょう? 「好き」 じたいの定義や検証がないも

[堀江] ある作品が好きだとか嫌いだと言うひとがいた場合、その発言の根拠は、 単発のレビューだけじゃ、わからないですね。 そのひとがこれまでなにを読ん できて、どういうことをそれぞれの本について語っているか、それをぜんぶ見 渡すことができて、はじめて好き嫌いの基準と、そういわせる文脈が見えて くる。もっといえば、「私」 が出てくると思うんです。そのためには、 足跡を 見せておかなきゃならない。ひとつだけ感想を言っておしまいでは、言われ た側の肥やしにもならないような気がしますね。重松さんの書評でも、これ だけの小説を書いて、読んで、語っているんだっていう背景がなければ、 読者に対して説得力が出ないでしょう。偉そうに聞こえるかもしれないけれ ど、自分が大事にしてきたものの総体として、特定の作品に対する好き嫌

[重松] 「好き」の表明も自己紹介だってことだよね。 ただ、いまは無邪気に「嫌 い」と言うひとも多いけど、「好き」も無責任に言われてると思うんだ。 だか ら、堀江さんの「6:4」の4の部分に、たしなみを感じるわけ。自己中心 的な「好き」ではない「好き」を書こうとしてるんじゃないかと。

[堀江] そう読んでもらえるとうれしいですね。「純粋に好きだ」という言いかたが よくあるけど、一途に好きであることの恥ずかしさに対して、少し距離をとり たい。熱くなりすぎたときにひとが見せる表情の無防備さって、まったく裏 側の熱狂とよく似てるところがある。そういうのはどうも苦手ですね。

[堀江] そういえば、「スタンス・ドット」で川端康成賞を頂戴したとき、同時受 賞者が青山光二さんだったんですよ。

[堀工] そのときぼくは 40 歳そこそこだったから、さすがに緊張で身体が震えまし [重松] 90 代のね。 たね。 あと 50 年書きつづけるって、どんなに厳しいことだろう、と。 同世 代の作家が並んでたら、そんなふうに感じなかったかもしれないけれど。あ と半世紀書きつづけるには、「一途な好き」 だけじゃ、とてもできないだろうし、 必死にやるっていう決意だけでも不十分だろう。なにか、もっと大切なもの が必要で、それがいつ見つけられるだろうって。とはいえ、青山さんの小説 世界のように、賭博をやるってことじゃないけど(笑)、博打も持続するのは 大変なことだから。

[重松] 書き続けてなきゃできないわけだからね。

[堀江] 小説でもエッセイでもない、中途半端なものをウリにしても、その「中途 半端」を徹底させないと、先人に申し訳ない気がするんです。「紹介」って そういうことでもあるんだと思う。

[堀江] すぐ前の世代も、その前も、もっと前も、たくさんの書き手がいた。だ から、彼らのあとに自分があって、その業績をあたりまえのこととして受け止 めて、書かせてもらっているっていう意識かな。自分ひとりでやってるわけ ではないんだと。

[重松] 歴史のなかにいるってことか。

[堀江] うん、大きく言えばね。 とくに日本におけるフランス文学研究や紹介って、 めんめんと続いてるから、自分がその歴史の1ピースにすぎないってことは 明らかなわけで、自然と謙虚な気持ちになる。前の世代の仕事を全く読ま ずに書き始めるひともいますけど、読むべきものは読んで、それから書くほう がいいと思いますね。残されてる道の、いかに細いかがわかるから。細い

道をみんなそれぞれ進んでこの世界があるんだから、そこをただ好き嫌いで 簡単にケナすようなことがあっちゃいけない。だから、ぼくはやっぱり6を取 りたいんです。こないだ、草月ホールで、伊丹十三が出てる「一六タルト」(愛 媛銘菓)のCMを見たんですが、1:6って比率が、なんかいいなあと思っ てね。足しても 10 にならないところが奥ゆかしい(笑)。

[重松] 残りの 3 はブラック・ボックスでもいいかもしれないね。 1 の方に足した ら 6:4 になるわけだし、6 のほうに足したら 9:1 にもなる。

[堀江] わからない「3」を、紹介するとき生かすこともできるしね。 最初からめい っぱいの 7:3 だとできないことも、3 が空いてるとできる。 ぽくが 6:4 って 言ってるのは、もしかしたらその7を6:4 で割ったものかもしれない。

[重松] 3 はブラックボックスなんだ。 [堀江] 予備日(笑)。 出張校正でも足りなかった日の使い道っていうか。

[重松] 連載はじめたら予備日もなくなっちゃうんだけどね (笑)。

[重松] 堀江さんはご自分の本の装丁もよく手掛けるけど、自分の本の巻末にペ ージが余って広告入るの嫌じゃない?

[堀江] 基本的には、好ましくないですね(笑)。でも、編集者はちゃんと見ぬい ていて、すばらしいものばかり選んでくれてます。

[重松] そのために 3 行削ったり増やしたり。本質とは関係ないって言われたら それまでなんだけど、でも変わってくるんだよね。

[堀江] 何ページも余らせるぐらいなら、削ります。作品の仕上げとしていいかど うかは別として、制作費の問題もあるし。ぽくの場合は売れないのが前提 だから、営業部もボランティアみたいになってくれて、好きにやらせてもらっ てます(笑)。装丁にも口出すし、紙も選ばせてもらう。「連載に穴あけなか ったご褒美に、いっしょに本を作ろう」って感じですね。

[重松] そうなると、『熊の敷石』 が講談社文庫で、背のデザインも決まってて表 4 にアオリが入る、そういう器に入ったことにはどんな感じ?

[堀江] 講談社文庫は、いまはエンターテインメントの印象がつよくなったけれど、 かつては純文学も多かったし、活字も紙質もちがっていた。背表紙は版元 というより書店用のものだからあきらめるとして、表紙は単行本と同じにしよ う、活字は単行本と同じ精興社にしちゃおうと(笑)。 だから、満足してます

[重松] そんなふうにパッケージとか、締め切りとか、コストの問題とか、そうい う外在的な要因をクリアしつつ進むことがプロだと思うな。

[堀工] 書いてるひとは、みんなそうだと思う。だから、本が 1 冊できるのに、ど のくらいのひとが、どれだけの時間をかけて携わったか、つねに考えますね。 そうやって、やっとの思いで出来上がったものを「おもしろくない」ってー 言でけなすぐらいなら、扱わないほうがいいと思う。 とても自由にみえるイン ターネットだって、ハードとソフトの開発者、それからプロバイダその他、い ろんな力が集まってできているものですからね。 利用者同士のつながり以前 に、べつの積み重ねが、下積みがある。ひとりでやるっていう言い方は、 だからちょっと変なんです。 本一冊でも、仕入先から材料を持ってきてくれ るひとがいなきゃ、できないわけでしょう。

[重松] やっぱり職人さん的なひとが好きでしょう。

[堀江] うん。コーヒー一杯だって、おいしいのを飲もうとしたら、原産地の選択 からはじめて、海運業者も選んで、焙煎技術を高めてと、めまいがするく らいの繋がりをクリアしなければならない。

[重松] 一歩間違ったら「人生論を書け」って言われちゃうかもしれないくらい、

[堀工] そんなことはないですよ。 ぼくはぼくのやり方で、十分に冷淡だと思って ます(笑)。6に達してないものを、捨てる、というか、敢えて取りあげない

『重松』堀江さんは黙って捨てるよね(笑)。 おれは 「おまえ捨てるから」ってい ちいち言って歩くから敵が増えるんだな。

[堀江] だから、そっちのほうが、ずっとひとがいいんですよ(笑)。「捨てるぞ」っ て宣言することで、重松さんの判断基準ギリギリに乗ってることを、まっす ぐアピールしてるわけですから。ぽくには、そういう芸ができないから、静か に葬るわけですよ。 心のなかの川に流す。 手を合わせてね。

[重松] 死屍累々(笑)。

(構成・森本翔子)

- [堀江] 『郊外へ』を書いたときは、新人でもあるし、編集部に企画書を出して、 連載中に扱う本のリストを挙げたりしたんですけど、一回もそれに従わなか った(笑)。最初に取りあげようと思ってた本を書く前に読み直したら、ぜん ぜん面白くなくて、しかたなく本を変えると、今度はそれに引きずられて、次
- [重松] 企画の世界で言う「叩き台」 みたいなもんだね。 どうせ使えないんだけど、 それをまんなかに置いてみんなでブレストしてるうちに、見えてくるものがあ
- [堀江] そうそう。でも、結果として流れができて、はじめて、「ああ、こういうこ とが頭のなかにあったんだな」ってわかる。どう考えても「小説家」のやり
- [重松] だから誰かとの同時受賞が多いのか! 堀江さんひとりに小説の賞を与 えることに選考委員にもなにかしらのためらいがある(笑)。「ザ・小説」み たいなひとと抱き合わせられる場合が多いでしょう?
- [堀江] ライブドア受賞だしね、今回は。
- [重松] 堀江・宮内(勝典) でね(笑)。 [堀江] 宮内さんに申し訳ないです。谷崎潤一郎賞のときは、なぜかひとりだっ たんだけど、これで「いいのかな?」って、とても不安でした。
- [堀江] 本道を行くひとがいてくれて、はじめてぼくみたいな、中途半端な仕事 [重松] バランスが取れない? が成り立つんです。だから小説でものを考える小説家を、心から尊敬して ます。じゃあ、ここからは「小説家」 重松清の話にしよう。
- [重松] おれのことはいいよ(笑)。
- [重松] 画家でも彫刻家でも、継続性を持って仕事をするひとを「家」と呼ぶわ けじゃない? その意味では、堀江さんは一貫して散文を書きつづけてきた
- [堀江] 書き続けてきてるっていうことには、納得してます。嫌になるときも、厳 しいときもあったけど、仕事をひとつひとつ、とにかくまじめにこなしてきた感 じですね。
- [堀工] 言い方がまずかったかな。たとえば、フランス現代文学の新刊レビュー を若いころよくやったんだけど、向こうの新聞の書評を読んでからじゃ遅いの で、シーズン前の予告だけ見て、大量に注文してたんです。届いたものか ら読んで、月刊誌の、3ヶ月に1回の輪番時評で、1冊だけ取りあげる ......もちろん勉強にはなったし、肥やしにはなったけど、いろんな意味でつ らかった(笑)。紹介した本についての問い合わせや反響もなかったですか
  - [重松] レビューを揶揄して「紹介屋さん」とか言うひともいるけど……。
  - [堀江] 紹介という仕事の、真の厳しさを身をもって知ってたら、とてもそんなこ と言えませんよ。そもそも、日本の文学は海の向こうの文学を吸収し、それ を紹介することから始まってるんだし。書評で言えば、どうやって同じ本をお もしろく紹介するか、芸を競ってたんだと思う。海外文学を紹介するには、 書き手のことはもとより、その本が出てくる文化的な背景を、ある程度以上 わかってなきゃダメだし、100 読んだとしても、紹介するときにひとつ間違え たら、残りの 99 も意味がなくなっちゃう。おまけに、紹介する本はぜんぶ 自前で買うわけですから。誰も助けてくれない。好きだからこその仕事です。
    - [重松] むかし早稲田で一緒に講演したとき、植草甚一さんについて話してたで しょう? 植草さんも「紹介」が好きなひとだったと思うんだけど、紹介と批
    - [堀江] 難しいところですよね。「批評」を読んだあと、そこで論じられている作品 を読みたいって気持ちにさせられたら、それは正しい意味での「紹介」にな っていると思うんです。逆に言えば、そういうことが起こらないものが、混じ りけのない「批評」なのかもしれない。
      - <sup>重松]</sup> 批評は完結しちゃってる、ってことかな。逆に、スキマがないと紹介にな らないというかね。「この本はこうだ」と断言するんじゃなくて、言わないと ころを少し残しておいて、 読ませたいって気持ちを起こす。
      - [堀II] 植草さんの文章でも、すごく力が入ってスキマがないものは、対象への 興味がわかないことが多い。いいかたちで論じられてるものは、紹介であり、 批評であって、扱われている本が読みたくなる、ってことだよね。
      - [重松] ミステリーの書評がネタバレできない、ってのに近い感じだよね。 坪内祐

三さんの「文庫本をねらえ」(週刊文春) が巧いなと思うのは、引用をオイ シイところで止めちゃうんだよ。それで続きを読みたくなる(笑)。



[重松] 堀江さんのキーワードって、「紹介」 なのかなって思ったんですよ。 『もの のはずみ』ではモノにたいする愛を語ってるけど、過剰にフェチになってない。 偏愛でも、みずからの偏愛を語るんじゃなくて、その「モノ」自体や、モノ にまつわる物語を紹介してくれる。

分の特

- [堀江] それはあるかもしれないなあ。
- [重松] 小説の登場人物でも、登場人物のおばあさんを一所懸命に紹介してく れてる感じがするのよ。描写に淫しないっていうのかな。それってもしかして、 フランス文学のレビューや翻訳をずっとしてきて、なにかを差し出すことが堀 江敏幸の「手つき」としてあるんじゃないかなと。
- [堀江] いまはじめて、自分の特徴がわかりました(笑)。 重松さんの小説でもそ うだと思うけど、たくさんいる登場人物を、ひとりひとりちゃんと区別できるっ てことは、「紹介」と同じなんだね。
- [重松] 一人称小説だって、結果的に主人公が沈んじゃって、強烈な相棒とか 脇役のキャラクターが立っていくことって多いじゃん? やっぱね、紹介しち ゃうんだと思うんだ。「こんなすごい奴がいて」とか「とんでもない女がいて」 ってさ。真摯に紹介しようと思ったら、脇役を描写せずにはいられない。
  - [堀II] 登場人物に対する愛情の度合いが、「紹介」 の質を高めるのかもしれな い。それから、話はちょっとずれるけれど、仕事の場で、「このひとはだれ それさんです」って紹介してくれるひとと、そうじゃないひとがいるでしょう? と ってもいい流れで、あったかい雰囲気で紹介してくれると、紹介してくれた ひとも、されたひとも記憶に残る。本も同じだと思うんですよ。
  - [堀江] 誰かと本の話をしていて、「知らないなあ、読んだことないなあ」なんて言 った本が、うちに帰って本棚を見ると、あったりするでしょ(笑)。 読んだは ずなのに、完璧に忘れていて、思い出しもしなかったわけです。それは、 よい「紹介」がなかったということじゃないかな。たとえば「重松さんと一緒 にその話をしたんだ」ってことを、その場の雰囲気といっしょに覚えていれば、 本の中身も思い出せる。この場合、その雰囲気ぜんたいが「紹介」になる。
    - [堀江] よく本の話を書くから、「インテリくさい」なんて、古い言い方で叱られ るんですけど(笑)、本もひとと同じだと思うから、やっぱりきちんと「紹介」 してあげたい。本に「五郎」って名前をつけて、それを忘れて、あとで「太郎」 に会ったら、そのおかげで「五郎」を思い出した、って話なんですよ。こん なの、インテリでもなんでもないよね。
      - [重松] 「五郎」 って名づける理由はよくわかんないけどね(笑)。

- [重松] 堀江さん、悪口というか批判はぜったいにしないでしょ?
- [堀江] というか、できないんだよね。 [重松] よく「いいものはどんどん紹介したい」 みたいに言うひとがいて、それも すごくわかるんだけど、一歩間違うと「読め読め」って宣伝になっちゃうじゃ ない? でも堀江さんの紹介は、悪くはいわないんだけど押しつけがましくも ない。 そのスタンスはなんなんだろう?
- [堀江] 傷のない本、完全に満足できる本なんで幻だから、書評などでは、いい ところをとりあげるべきだと思うんです。 あるひとの 6 割は肯定できて、4 割 は肯定できなかったとしても、6割のほうを見るでしょう? ぼく自身、外か らの評価は、どんなによくても、肯定が5割5分、否定が4割5分だと 思っているから、6割って、それだけでたいへんなことなんですよ。
  - [重松] その見方が小説やエッセイの登場人物にも適用されてるのかな。
  - [堀工] 裏側の物語は、いくらでも書けるはずですよね。 だけどそれはわざわざ知 らなくてもいいんじゃないかな。 世の中にはそういうものを、とてもおもしろく 書けるひともいるから、なにもぼくがやらなくたって、任せておけばいい。 表の部分って綺麗ごとに見えるんだけど、醜いところがあってこそ綺麗さが あるわけだから、表を扱うのも、裏をつつくのとおなじくらい難しいことですよ。 これは言わないでおこう、結婚式だから、みたいな……だけど、結婚式じゃ なかったら言うかっていうと、やっぱりそれは言わないんだよね(笑)。

    - [堀江] 「やっぱり認められない部分はあるんだよ」ってことは、普段のぼくの言 動をひとつひとつ集めてきてくれれば……。
    - [重松] おのずとわかるでしょう、と? そっちのほうが怖い(笑)。



HORIE TOSHIY

■個 ちょうど今日は堀江さんの読売文学賞の授賞式なんだけど、毎年、なにかお祝してる

[編工] でも、小説の賞をもらってることが、やっぱり不思議な感じですね(笑)。 **■松 音「ほくの散文は小説ともエッセイともつかないから、文芸雑誌の目次でも前のほうじゃ** なくて、バ(ページの合わせ目)に来るんだ」と言ってたけど、いまもそんな感じなの?

[編工] 自分を「小説家」と呼んでいいのかとうか、いまだにわからないんだよね。常に「小説」

という枠でものを考えてるひとが、「小説家」だと思うんだけど……。

[堀江] 小説のことを四六時中考えてて、小説の形式で思考していないと頭がおかしくなっちゃう ようなひとを、本当の意味で「小説家」と呼びたいんです。それ以外のひとは「作家」。 「重松」自分はそうしゃない、と?

形態を選ばず、言葉でいろんなものを作るひと、という意味でね。

「重松」でもさ、仕事の依頼で「小説をお願いします」って言われないの? 「横江「なんか書いてくれ」って来ます(笑)。こんどの『河岸忘日抄』も、「バリ日記でもな んでもいいから」って頼まれたものだし。引き受けてから書くまでくずくずしてるうち、同し雑

誌で、奥本大三郎さんの「パリ日記」風の連載が始まっちゃったんですよ。これがじつにお もしろい。それで、重なるといけないから、こちらは創作風にしました(笑)。とにかく始めれ

「帰江」 み切が来ると体が動く、くらいの意味かな。 「小説家」 のひとが、よくインタヴューで、「次 [重松] なんとかなるというのは、物語の結構がつくって意味? はこんな作品を書く予定です」って語るでしょう? だけどぼくの場合、企画の段階では、

「重松」今回も、「バリ日記」っていう最初の目論見は崩れてるわけたしね。 「堀工」「崩れる」って言うと、約束した内容があって、それができなくなったみたいだけど、そも そも自分自身、何を書くかわかってなかったんだからね。 (23 ページに様く)

24